FUJI OIL
CSR Report 2010

不二製油 CSRレポート2010

二つとない、をつくる。

不二製油

FUJI WAY

□企業理念

「食」の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献します。

□経営理念

経営の前提

安全・品質・環境を最優先する。

経営基本方針

顧客への貢献を果し不断の発展を図る
創造の精神をもって常に革新に挑む
自己啓発を熾んにし人格の向上を目指す

□コーポレートメッセージ

二つとない、をつくる。不二製油

関西空港沖、洋上から望む本社・阪南事業所（2010年7月22日撮影）

編集方針

不二製油は、2010年創業60周年を迎えました。私たちは、グローバルで持続的な成長に取り組む食品素材メーカーとして、社会や自然と調和し、「二つとない」価値を提供する企業グループを目指し、事業活動を展開しています。本レポートは、不二製油がこのたび初めて発行するもので、当社の企業の社会的責任（CSR）の考え方、取り組みを中心にステークホルダーの皆様に報告するものです。

●対象期間

2009年度（2009年4月1日～2010年3月31日）の実績です。
活動や取り組み内容は一部に過去および直近のものも含みます。

●対象範囲

不二製油（株）単体の活動を中心に掲載しています。
環境データについては、国内グループ会社（生産拠点）のトーラク（株）、フジフレッシュフーズ（株）、（株）エフアンドエフを含みます。
上記以外を対象とする場合は、データとともに集計範囲を記載しています。

●発行

2010年10月
次回発行予定は2011年9月

●参考にしたガイドライン

不二製油「CSRレポート2010」は、環境省「環境報告ガイドライン（2007年版）」とGRI（Global Reporting Initiative）の「サステナビリティレポーティングガイドライン2006」を参考にしています。

INDEX

編集方針／ FUJI WAY …… 2
不二製油グループの概要 …… 4
トップメッセージ …… 6
不二製油グループのCSRビジョン …… 8

特集／不二製油の歩み …… 10

マネジメント報告

●コーポレート・ガバナンス
透明性の高い健全な経営の実現 …… 18
●コンプライアンス
信頼される企業のための体制づくり …… 20
●リスクマネジメント
リスクの的確な把握と適切な対応 …… 21
●品質保証
原材料から販売までの徹底した品質管理 …… 22
●技術経営
新素材の開発により社会に貢献する …… 24

社会性報告

●お客様とともに
お客様への責任 …… 26
積極的な情報発信 …… 27
●従業員とともに
人事の基本的な考え方／雇用状況 …… 28
人材育成への取り組み …… 29
働きやすい職場づくり …… 30
人材の多様化の推進 …… 31
いきいきとした風土づくり …… 32
●お取引先とともに
公平・公正な取引で信頼関係を築く …… 34
●株主・投資家とともに
適切な利益還元と情報開示 …… 35
●地域社会とともに
地域社会との共存共栄 …… 36

環境報告

●地球環境のために
環境経営の推進 …… 39
事業活動と環境負荷 …… 40
環境目標と実績 …… 41
地球温暖化防止 …… 42
水資源の保全と廃棄物の削減・再資源化 …… 44
その他の環境対応 …… 45
環境会計 …… 46

編集後記 …… 47

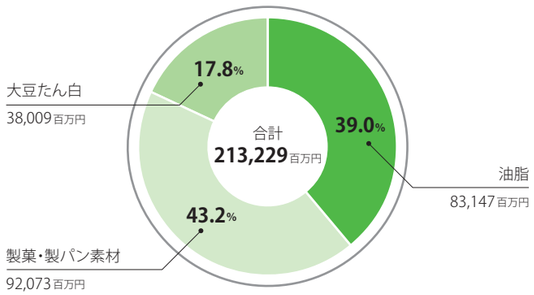
不二製油グループの概要

1950年の創業以来、不二製油は「人マネをしない」という創業の精神のもと「食」の分野で事業を拡大し、広く世界で油脂事業、製菓・製パン素材事業、大豆たん白事業を展開しています。“ニッチ、スペシャル、グローバルに健康とおいしさを提供し、世界のお客様に認めていただく食の素材メーカーを目指すこと”を長期ビジョンに掲げ、事業を推進しています。

会社概要（2010年3月31日現在）

商号	不二製油株式会社
本社所在地	大阪府泉佐野市住吉町1番地
設立	1950年（昭和25年）10月9日
資本金	13,208百万円
代表者	代表取締役社長　海老原 善隆
従業員数	単体1,069名　連結3,524名
子会社・関連会社	連結子会社　29社
	持分法適用関連会社　2社

■事業別売上高構成比



事業概要（主な製品区分）

油脂事業

・チョコレート用油脂・製菓用油脂・冷菓用油脂・フライ用油脂
・クリーム用油脂・乳化油脂、粉末油脂、潤滑・離型油

製菓・製パン素材事業

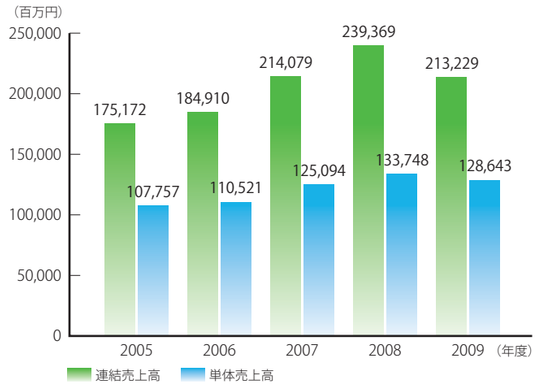
●チョコレート　・カラーチョコレート・製パン用チョコレート
　・アイスチョコレートコーチング
●乳化・発酵食品　・クリーム・マーガリン・フィリング
　・チーズ素材
●食品素材輸入　・粉乳調製品・冷凍生地・調理用素材

大豆たん白事業

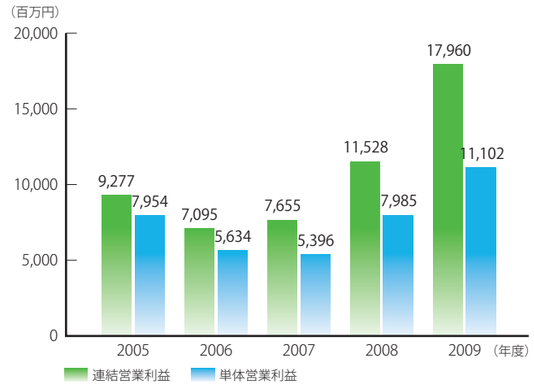
●大豆たん白素材　・粉末状大豆たん白・粒状大豆たん白
●大豆たん白機能剤・水溶性大豆多糖類・大豆ペプチド
　・大豆β-コングリシニン
●大豆たん白食品
●豆乳　・業務用豆乳・小売用豆乳製品

主な経営指標

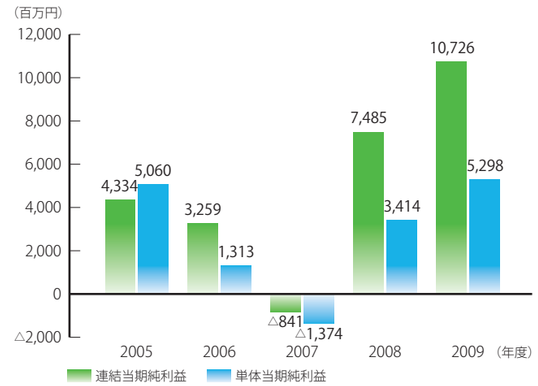
■売上高



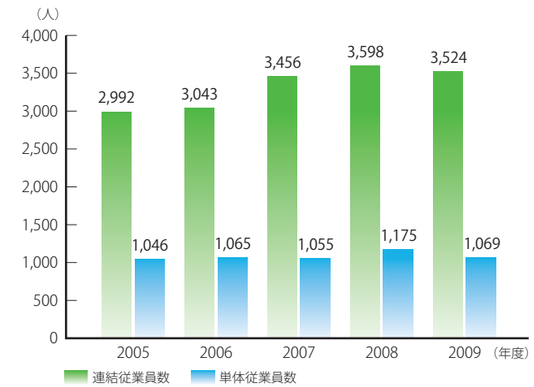
■営業利益



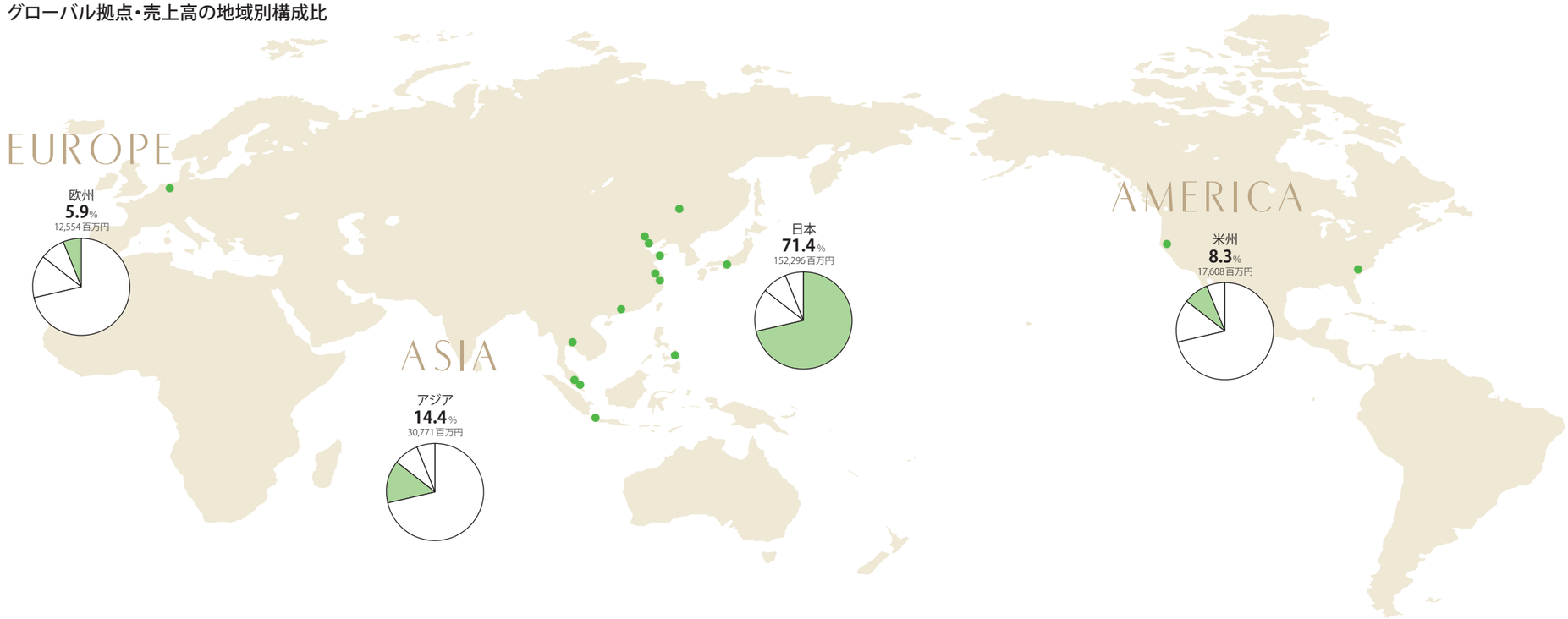
■当期純利益



■従業員数



グローバル拠点・売上高の地域別構成比



世界と対話し 世界の声を反映する「ものづくり」を通じ「二つとない」価値を提供することで、健康で豊かな生活に貢献する企業グループを目指します。

不二製油は本年10月、創業60周年を迎えました。社長の思うところを、聞かせて下さい。

お蔭様で10月9日創業60周年を迎えることができました。不二製油は1950年、不二蚕糸大阪工場を前身に不二製油として独立、新発足しました。当時の大豆等の原料事情や諸先輩方のアドバイスもあり、南方系油脂に取り組み、「人マネをしない」という創業の精神により、独自の技術で世界初、日本初の製品群を生み出し、「油脂」「製菓・製パン素材」「大豆たん白」という事業セグメントを構築してきました。

また、日本の食品企業としては、商社の生い立ちもあって比較的早くから海外に進出し、現在は海外8カ国に生産拠点を有し、世界78カ国に販売しています。

中間素材メーカーとして、技術革新による様々な新素材の開発、新事業への取り組みにより、原料革命から材料革命へと、お客様に新しい価値を提供してまいりました。

「食」の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献します。という企業理念の実現こそが当社の60年の歩みであったかと思います。

今年初めてCSRレポートを発刊することとなりました。その経緯を聞かせて下さい。

不二製油におけるCSR（企業の社会的責任）とは何か、について2008年から経営会議で議論を重ねてきました。CSRタスクフォースを結成し、コーポレート・ガバナンス、品質、環境保全、食の安全などの「守りのCSR」と、本業によって社会に貢献する「攻めのCSR」に分類し、社外からのご意見もいただき現状分析を行いました。その結果、課題と思われる要素も見えてまいりました。

これらの課題を含め、社外のステークホルダーの皆様にCSRにおける当社の考え方及び活動の状況を発信することの重要性を認識し、併せて社員に発信することでCSRの浸透を図ることを目的に、本年初めてCSRレポートの発刊に至りました。

不二製油のCSRとは何であるとお考えですか？

不二製油におけるCSRとは、食品素材メーカーとして本業を通じて社会に価値を提供することであると考えています。

当社におけるCSRの基本は①「企業理念」「経営理念」を実践すること。②「持続的な成長を可能とする利益の実現」がCSRを支える基盤である。③社会からの要請に応え、全てのステークホルダーから信頼を獲得すること。④企業と社会の双方向のコミュニケーションを行い企業価値の向上を図ることと認識し、これらの実現を目指しています。

不二製油のCSRビジョンについて聞かせて下さい。

創業60周年、CSR元年である2010年、初めてコーポレートメッセージ「二つとない、をつくる。不二製油」を制定しました。グローバル化した現在、当社は世界と対話し、世界の声を反映する「ものづくり」を目指していかなければなりません。そのためには、不二製油らしさを見つめ直し、問い続けること。それがCSRの原点でもあると考えています。限られた地球資源の中で、自然や社会との調和を保ちつつ、「二つとない」価値を提供すること。「二つとない、をつくる。不二製油」をCSRビジョンと位置づけ、活動していきます。

「二つとない、をつくる。」を支えるものは何でしょうか？

それは、「人マネをしない」という技術を根幹に、経営理念（経営基本方針）の顧客貢献、創造の精神、人格の向上を図ることであり、これは役員、従業員含めた社員ひとりひとりが「二つとない、をつくる。」とは何かを常に思い起し、実践していくことに他ならないと思います。

社員ひとりひとりがもっている、二つとない個性。二つとない発想。二つとない経験。それを活かし社会の要請に応えていくことではないかと考えています。

CSRの観点から特に注力している取り組みは何でしょうか？

何といっても人々の健康で豊かな生活に貢献する当社ならではの新素材の創出です。この力がなくなれば不二製油の社会的存在価値がなくなると言っても過言ではありません。

それから食品企業としての安全・安心で高品質な製品・サービスの提供です。原料面では、トレーサビリティの保証されたサプライチェーンを充実させていきます。また、ソフト提案とともに海外ネットワークを利用して収集した世界の情報をスピーディに顧客にお伝えすることも必要です。

環境マネジメントでは、全ての事業活動で環境負荷を低減することです。水やエネルギーの低減を実現する生産方式の、抜本的な変換へも取り組んでいきたいと思っています。食品工場ですから廃棄物の削減や再利用なども課題です。

さらに、グローバル化に対応する人材育成や人材の多様化の推進、国内外のグループ会社も含めた安全健康管理、社内コミュニケーションの活性化なども重要な課題と認識しています。

特に、不二製油におけるグローバル人材の育成について聞かせて下さい。

これからますますグローバル化が進行します。海外事業展開を担うグローバル人を育む人材育成が重要です。若いうちから海外を経験する研修制度の充実や海外グループ会社の業務サポートで若い人を優先的に派遣するなど、海外経験を増やす施策を取り入れたいと思います。

不二製油には設立の経緯や生い立ち、資本構成比率の異なる様々な海外グループ会社があります。そこで仕事を経験する機会が得られれば、他社とは差別化された当社独自の人材育成が可能とも言えます。それは多様性に富んだ人材育成にも繋がっていきます。

CSRを推進していく上で必要なことは何でしょうか？

まず全員参加の活動であるとの認識が重要です。社員とのタウンミーティングなどを開催し、CSRビジョン「二つとない、をつくる。」を自分たちの言葉で語りあうことで啓発に努めたい。

本業におけるCSRについては、2011年から新中期経営計画3カ年がスタートします。その中でCSR課題を各部門が十分把握した上で、目標設定しPDCAが回る仕組みを構築したいと考えます。CSR推進体制をCSR推進室が事務局となり構築していきます。CSRを推進することで不二製油の文化を育み、社会から信頼され、持続可能な成長を実現する不二製油を目指してまいります。

不二製油株式会社
代表取締役社長 海老原善隆

不二製油グループのCSRビジョン

二つとない、をつくる。
不二製油

2010年、不二製油が創業60年にして
初めて掲げるコーポレートメッセージです。

不二製油という会社は、どのような会社なのか。
不二製油は、何を大切にする会社なのか。
会社の意志や思い、そしてビジョンを凝縮したものです。

「二つとない、をつくる。」は、
不二製油が社会と交わす約束の言葉であり、
社員ひとりひとりの目標となる言葉です。

私たち不二製油グループは、「食」の創造を通して、健康で豊かな生活に貢献します。という
企業理念を実現することがCSRと認識しており、
事業を通してステークホルダーの皆様とともに発展し続ける企業でありたいと考えています。
「二つとない、をつくる。不二製油」は、
その思いをステークホルダーの皆様と広く共有するために生まれたコーポレートメッセージです。
私たちが果たすべき責任として、不二製油は「二つとない、をつくる。」を実践してまいります。

二つとない、

価値の提供	・高品質 ・新製品 （健康、豊かさ、おいしさ、美しさ） ・サービス ・お客様満足	お客様とともに P.26～27
個性の尊重	・働きがいの向上 ・活躍できる環境 ・成長支援 ・多様化の促進	従業員とともに P.28～33
信頼の向上	・公平性、公正性の確保 ・パートナーシップ（共存、共栄） ・人権、環境への配慮	お取引先とともに P.34
会社への成長	・利益成長、利益還元 ・経営の健全性、透明性 ・公平・公正な情報開示	株主・投資家とともに P.35
社会との共生	・社会との共生 ・社会貢献活動	地域社会とともに P.36～37
地球環境との共生	・地球環境との調和、配慮 ・環境活動	地球環境とともに P.39～46

特集

不二製油の歩み

不二製油は創業以来、健康で豊かな「食」文化を目指し、
常に創造の精神をもって革新に挑んできました。
これからも次代を担う食品中間素材メーカーとして、
独自の技術力で新たな分野を切り拓こうとしています。

沿革

1950年（昭和25年）10月	不二蚕糸大阪工場が、資本金300万円で不二製油株式会社として独立、新発足。
1951年（昭和26年）2月	圧搾工場を新設。日本初の圧抽方式によるコプラ搾油に成功。
1954年（昭和29年）1月	日本初の本格的パーム核油搾油を開始。
1955年（昭和30年）8月	神戸工場を買収し操業を開始。
1955年（昭和30年）9月	大阪工場に油脂溶剤分別装置を完成し、日本初のハードバター（商品名メラノバター）の製造を開始。
1960年（昭和35年）9月	神戸工場に連続抽出装置を完成、稼働。
1960年（昭和35年）10月	「経営基本方針」制定。
1961年（昭和36年）10月	株式を大阪証券取引所市場第2部に上場。
1963年（昭和38年）2月	洋生チョコレート「チョコファンシー」を発売。
1965年（昭和40年）	コプラ処理量が日本一に。
1967年（昭和42年）8月	東洋製酪株式会社（現 トーラク株式会社）に出資。（2010年3月末現在 国内連結会社 14社）
12月	大阪工場で分離たん白の生産開始。製品名「フジプロ」。
1968年（昭和43年）2月	世界初、高油分クリームの直接加熱殺菌に成功、ロングライフクリーム「トッピング」発売。
1969年（昭和44年）4月	阪南工場、第1期工事完了、創業。
12月	マーガリン事業に参入、「エリーゼV」新発売。
1971年（昭和46年）4月	阪南工場、第2期工事完了、完全稼働。
1973年（昭和48年）2月	大阪証券取引所市場第1部に指定。
3月	大豆たん白食品生産開始。
1974年（昭和49年）7月	本社を大阪市南区八幡町（現 大阪市中央区西心斎橋）に移転。
1975年（昭和50年）8月	即席麺用「油揚げ」発売。
1977年（昭和52年）11月	「フジサニープラザ」（東京）オープン。
1978年（昭和53年）10月	東京証券取引所市場第1部に上場。
11月	「クーベルチュール」「ガナッシュ」発売。
1980年（昭和55年）	酵素エステル交換技術を完成。
1981年（昭和56年）10月	シンガポールに FUJI OIL（SINGAPORE）PTE.LTD.を設立。（2010年3月末現在 海外連結会社 15社）
1982年（昭和57年）	新「経営基本方針」を決定。
1987年（昭和62年）	大豆ペプチド「ハイニュート」発売。
1990年（平成2年）4月	つくば研究開発センター本格稼働。
1993年（平成5年）	水溶性大豆多糖類生産技術を完成。「ソヤファイブS」本格発売。
1994年（平成6年）9月	関東工場クリーム工場竣工。
1997年（平成9年）4月	財団法人「不二たん白質研究振興財団」設立。
	豆乳生産技術（新クリア製法）完成。
1999年（平成11年）2月	本社機能が心斎橋からセンタービル（阪南工場）へ移転。
2001年（平成13年）8月	関東工場内にチョコレート工場を建設し、操業を開始。
9月	国内での大豆搾油より撤退。
2002年（平成14年）5月	阪南事業所コプラ搾油工場を閉鎖。
2005年（平成17年）12月	りんくう工場を建設し、操業を開始。
2006年（平成18年）	企業理念策定。
5月	千葉工場を建設し、操業を開始。
2010年（平成22年）10月	創業60周年コーポレートメッセージ「二つとない、をつくる。不二製油」策定

創業前史

独自性に活路を求め「人マネはしない」決意

不二製油の歴史を見る上で、サナギの時代ともいえる約4年間の前史は欠かせません。太平洋戦争が終結した翌年、戦後復興の流れの中で設立された不二蚕糸。長野県上田市に本社を置く製糸会社の大阪工場が幾多の苦難を乗り越え、不二製油として生まれ変わったのです。

大阪工場は、不二蚕糸9工場の中でも異質の製油工場として1947年2月に操業を開始。各工場が生糸を紡いだ後に残る蚕蛹（サナギ）を搾り、油を抽出して石鹸に、また搾り粕を利用してアミノ酸醤油を製造していました。しかし、当時、蚕蛹は貴重な資材であり、飼料や肥料としても価値があったため、各工場は蚕蛹を専有物化。そのため大阪工場は原料不足を自力で補わなければなりませんでした。

しかし、いくら原料集めと資金作りに東奔西走しても、蚕蛹の集荷は月に1〜2トンが限度。これは小規模な釜が3基しかない抽出設備でも月に3日稼働できるかどうかで、とうてい足りる量ではありません。細々と蚕蛹を搾りながら今後の事業の方向性を摸索する中、あくまでも製油を主体とすることを決意し、製油原料と油脂製品の配給権を一手に握っていた油糧配給公団に足繁く通い、ようやく大豆・ナタネなどの割り当てを受けることができ、1947年、蚕蛹以外の原料の搾油が始まりました。しかし、当時の製油業界はすでに大手企業がひしめく状況で、**「人マネをしていては道はない」**と次なる決意を固めていました。

創業当時（1950年）の不二製油

「ヤシ油を目指せ」を指針に苦難を乗り越え自立独立を目指す

油糧配給公団の指定工場となる交渉過程でめぐり会ったのが菊池土用三氏。日本の製油業発展に情熱を傾けた人物です。菊池氏は大阪工場を一人前の製油工場にするため全面的な協力を約束。工場の整備から製油原料の受給、さらに油脂の基礎知識や製油技術、工場管理に至るまで熱心に指導にあたりました。

こうして1949年、正式に指定工場となり大豆の搾油を開始したものの、新参だけに大豆原料の割り当てが少なく、米ヌカやトウモロコシ胚芽なども搾油。全てが試行錯誤の連続でしたが、それでも翌年には月間売上4,000万円を計上できるまでになりました。

ところが、大阪工場がようやく製油工場らしくなった矢先、日本にデフレの嵐が吹き荒れ、本体の不二蚕糸が経営不振に陥ったのです。もともと自立独立を目指していた大阪工場はこれを再出発の好機と捉え、以前から関係のあった伊藤忠商事の出資により単独で新会社を設立。こうして1950年10月、不二製油が産声をあげました。

資本金300万円、従業員数41名、年間売上1億円程度の後発メーカーとして新たな一歩を踏み出した不二製油。折りしも当時の製油業界は、1945年に268工場にすぎなかった全国の製油工場数が1950年には9,979工場にも上るなど戦後日本でピークの年で、不二製油にとって前途多難な船出でした。しかし、大阪大学の上野誠一教授の**「会社の規模の大小にかかわらず、個性的に育てよ」**という言葉と、菊池氏の**「南方にコプラがある。ヤシ油を目指せ」**との教えを噛みしめながら、激しい時代の波に立ち向かって行ったのです。

ヤシの木

ヤシ油の原料となるコプラ

独自性のある製品開発で新たな食文化を切り拓く

不二製油は創業以来「人マネをしない」精神のもと、油脂事業を通して豊かな食生活への貢献を目指してきました。

産声をあげた1950年といえば、製油業界が自由化の第一歩を踏み出した年。先発の大手製油会社との競争に打ち勝つため、後発メーカーだった不二製油は他社が主力にしていない南方系の油脂原料コプラに着目し、独自性を追求したのです。

1951年、日本で初めて圧抽方式を確立し、コプラの搾油に成功。1954年には、良質の油脂を含んでいたものの、日本では前例のなかったパームカーネルの搾油に成功しました。さらに、搾油したパームカーネル油を食用油として高度利用するため、前人未到の分野だった温度による溶剤に対する油脂の溶解度の差を利用する溶剤分別結晶法を採用。何度もテストを繰り返した末、ようやく口どけのよい融点を持つココア類似脂肪が完成し、1955年、日本初のハードバター「メラノバター」が誕生したのです。

大阪工場のコプラ抽出装置

油脂溶剤結晶分別装置

チョコレート製品群（1963年）

しかし、メラノバターには弱点がありました。メラノバターに土壌菌やココアの菌が付着すると石鹸臭が発生することが判明したのです。そのため、新原料を求めて新たな摸索が始まりました。様々なナッツや果実のサンプル中から最後に残ったのがシアナッツで、慎重にテスト製造を行うなど原料転換を決定してから2年を経た1959年、新生ハードバター「メラノバターSS」が誕生し、世界に販売できる商品として育っていくのです。また、ココアバターの搾油に取り組んだ不二製油は残渣側のココアの利用開発に着手し、1963年、洋菓子用「チョコファンシー」など7種類のチョコレート製品を一斉に発売。新たなチョコレート文化を開花させるに至ったのです。

シアナッツ

一方で、1961年の大豆輸入の自由化により、製油業界で食用液体油の販売競争が激化する中、不二製油はパーム油を原料に溶剤分別の技術を生かして調整したオイルを独自に開発。それが1962年に発売した「ユニバーL」で、熱安定性、油ぎれの良さなどに優れ、米菓やナッツ類のフライ用として高い評価を得るとともに、この製品の誕生が製菓用オイルの分野を切り拓くきっかけとなりました。

パームの実

パーム

メラノバター SS

フジサニープラザでの試作会風景

おいしいケーキを全国へ洋菓子素材を幅広く充実

チョコファンシーが市場で成長する中、不二製油は新規の洋菓子商品としてホイップクリームの開発に着手しました。当時は生活が洋風化するのに伴い、おやつも和菓子からケーキへと移り変わる時代。生クリームの元となる牛乳の需要が高まるにつれて原乳不足が心配され、さらに乳脂肪は品質が安定せず日持ちしないという難点がありました。不二製油はここに着目し、それらの欠点をカバーし、おいしいホイップクリームの開発を目指しました。こうしてできたのが、ホイップ用「トッピング」をはじめ、コーヒー用「コーヒーホワイトナー」、ソフトクリーム用「ソフトミックス」などの植物性油脂クリーム。中でもトッピングは、1年中安定した品質を得られることから高く評価されました。

クリーム類

クリームの発売で洋菓子市場への展望が開けた不二製油は、続いてマーガリン、ショートニングの製造を開始。先発メーカーとの競争に打ち勝つために高級指向のニーズに応えた業務用マーガリン「エリーゼV」を皮切りに商品ラインナップを充実。ショートニングについても焼菓子用「パンパスデラックス」をはじめ高級品から普及品まで品揃えを充実させていきました。

エリーゼV

提案営業で日本にティラミスブームを巻き起こす

不二製油で特徴的なのが提案営業。中間素材である当社の製品をアピールするには素材（ハード）の特徴を説明するとともに、利用方法（ソフト）の提案が不可欠でした。また、日本が成熟社会を迎えた1970年代になると、ますますユーザーのニーズが多様化。企業にとっては顧客密着で、いかにして新たなニーズを発見するかが重要な課題となりました。

そうした中、不二製油はユーザーと共同開発ができる場として、1977年、東京支店に「フジサニープラザTOKYO」を開設しました。ここではパンやケーキの講習会を開くなど、お客様との交流の場となり、また様々なニーズが吸収できる顧客密着、提案営業の拠点として定着。今では東京、阪南、つくばのほか、シンガポールや上海にも海外展開するなど、不二製油における代表的なビジネスモデルとなっています。

また、提案営業で忘れてはならないのが洋菓子「ティラミス」の大ヒット。日本でブームを起こしたのが不二製油です。そのきっかけとなったのが、不二製油の社員がドイツのミュンヘンで出会った、イタリア北部で古くから伝わるデザートケーキのティラミスで、日本ではごく一部にしか知られていませんでした。

ティラミスにはマスカルポーネというチーズが材料として使われており、不二製油ではそれに代わる植物性の乳酸発酵素材「マスカポーネ」を1988年に完成。当初はそれほどの反響がなかったティラミスでしたが、女性誌『Hanako』に紹介されたのを機に一気に認知度が上がり、「ティラミス現象」という言葉が生まれるほど爆発的な売れ行きを示したのです。

ティラミス

ティラミスが女性誌で紹介

大豆たん白事業の歩み

大豆たん白の高度利用は創業時からのビジョン

大豆は15～20%の油分を除くと脱脂大豆となります。この脱脂大豆の40～50%はアミノ酸のバランスに優れたたん白質ですが、ほとんどが飼料として使われていました。

不二製油が本格的に大豆たん白事業に乗り出したのは1960年。神戸工場に連続抽出装置が完成した時からが始まりですが、じつは創業当初から大豆たん白の高度利用がビジョンとしてあり、1957年には脱脂大豆の食品化に開発課題として取り組んでいたのです。

神戸工場

1961年に大豆輸入が自由化になると、製油各社が一斉に脱脂大豆を利用した製品を発売。しかし、それらはパンや麺類、ソーセージなどに混用するものがほとんどでした。そんな中、不二製油はより高品質の製品を目指して粘り強く研究を続行。他社に遅れたものの、翌年にかけて発売した醸造用と豆腐・油揚げ用「不二宝豆」は高い評価を得ました。

大豆の良さを引き出す製造技術ゲル形成法が世界10カ国で特許取得

不二製油はさらにたん白質含有量92%以上の分離たん白に取り組むことになります。不二製油が着目した分離たん白とは、アルカリ水溶液で抽出した脱脂大豆で豆乳を作り、そこからおからとホエーを抜いて乾燥させたもの。研究は分離たん白にゲル形成性を加えることが最重要テーマとなり、度重なる実験の結果、アルコール変性によってゲル化の性質が出ることが判明し、試行錯誤の末にアルコールを使わないゲル形成法を開発。この製法は画期的で、世界10カ国で特許を取得しました。そして誕生したのが、たん白質90%以上を含み、粘弾性や乳化性に優れた大豆たん白製品「フジプロ」です。

フジプロR

即席麺用油揚げ

一方で、不二製油には神戸工場で大豆たん白事業を開始した当初から温め続けてきた目標がありました。それは「大豆たん白の最終製品を小売市場で開花させたい」というもので、1973年がんもやハンバーグ、ミートボールなどの製造を開始。さらに、油揚げの製造にも着手し、カップめんのきつねうどんの具として新しい分野を拓きました。

京風がんも

「P-95プロジェクト」が実を結び画期的な新素材が誕生

独自の製品開発で新たな分野を開拓してきた不二製油が、更なる技術開発力の強化と充実を目指して1990年4月に完成させた「つくば研究開発センター」。ここで画期的な新素材を誕生させました。それが水溶性大豆多糖類（SSPS）で、「ソヤファイブS」と名付けられました。

ソヤファイブSは、不二製油が将来に向けて確固とした経営基盤を築くことを目的にスタートさせた「P-95プロジェクト」において、原料のおからの処理を様々な方法で試すうちに見つけたユニークな素材。豆腐や大豆油を作る際に捨てられていた副産物の再利用という意味でも画期的でした。乳化性・皮膜性に優れ、酸性化下で蛋白粒子を安定させる機能を持ち、乳化香料や粉末香料として利用できるほか、低濃度でスッキリとした味わいの酸性乳飲料の生産も可能にするなど、使用された商品も順調にヒット。食品機能剤事業の立ち上げに大きく貢献し、この間の研究開発陣の成果に対し、多くの表彰や学位が贈られました。

水溶性大豆多糖類

海外展開の歩み

時代に先駆けグローバル化を推進しアジア・中国市場にネットワークを構築

不二製油は、時代に先駆けて海外で生産拠点を築くなど、グローバル化に向けて確かな布石を打ってきました。

1981年、不二製油はアジア市場の中心地となるシンガポールに海外戦略の重要拠点として「フジオイル（シンガポール）」を設立しました。南方系油脂原料の調達、関税面でもシンガポールは最適な地でした。高品質のハードバターをはじめとするスペシャリティファットを生産し、操業当初から日本をはじめ世界50カ国以上に輸出しています。

1982年頃のフジオイル（シンガポール）

1985年には、パームの主産地であるマレーシアに「パルマジュ エディブル オイル」を設立。1988年には、製菓・製パン用素材を生産販売する「ウッドランド サニーフーズ」を設立するなど、アジアでの拠点を拡充していきました。

一方、中国は人口13億人超のマーケットを持っているだけに、その将来性と成長力を見据えて早くから拠点づくりのリサーチを開始。1994年には、大豆産地に立地した大豆たん白を生産する吉林不二蛋白有限公司を設立したのを機に巨大市場に新たな可能性を求め、1995年には、不二製油（張家港）有限公司を設立。中国は油脂、製菓・製パン素材、大豆たん白の中核3事業が全て揃った地域となっています。

このようにして、不二製油のグループ会社はアジア・中国市場にネットワークを築いていきました。

吉林不二蛋白有限公司

欧米市場の動向を見つめながら先進的な企業のあり方を目指す

アジア・中国市場での拠点拡充を図りながら、不二製油は米・欧などにも市場を広げていきました。1987年にはアメリカに「フジ ベジタブル オイル」を設立。また1989年にはベルギーで、ヴァンデモーテル社との合弁で「ヴァモ フジ スペシャリティーズ」（現フジオイル ヨーロッパ）を設立するなど、現在では海外8カ国で生産・販売ネットワークを構築しています。

このように、着実にグローバリゼーションを推進しながら、不二製油が目指しているのは先進的な企業のあり方。アメリカ市場で低トランス酸油脂が評価されたことも、日本の市場にとっては先行指標になりました。言わば、欧米に展開するグループ会社は成熟市場における企業のあり方を示す情報発信源としての機能も担っており、不二製油グループは常に企業としてあるべき姿を追求しながらグローバルに展開しています。

フジ ベジタブル オイル

海外グループ会社沿革

年		主な事業セグメント	国
1981	フジオイル（シンガポール） 設立	油脂	シンガポール
1985	パルマジュ エディブル オイル 設立	油脂	マレーシア
1987	フジ ベジタブル オイル 設立	油脂	アメリカ
1988	ウッドランド サニーフーズ 設立	製菓・製パン素材	シンガポール
1992	ヴァモ フジ スペシャリティーズ 設立（現 フジオイル ヨーロッパ）	油脂	ベルギー
1994	吉林不二蛋白 設立	大豆たん白	中国
	ニューレイテ エディブル オイル 設立	油脂	フィリピン
1995	フレイアバディ インドタマ 設立	製菓・製パン素材	インドネシア
	山東龍藤不二食品 設立	大豆たん白	中国
	不二製油（張家港） 設立	油脂／製菓・製パン素材	中国
2003	フジサニーフーズ 設立	油脂／製菓・製パン素材	シンガポール
	上海旭洋緑色食品 資本参加	大豆たん白	中国
2004	ソヤファームUSA 設立	大豆たん白	アメリカ
	天津不二蛋白 設立	大豆たん白	中国
	正義油脂 資本参加	油脂／製菓・製パン素材	台湾
2007	深圳旭洋緑色食品 設立	大豆たん白	中国
	不二富吉（北京）科技 設立	大豆たん白	中国
2010	フジオイル（タイランド） 設立	油脂／製菓・製パン素材	タイ
	ムシムマス-フジ 設立	油脂／製菓・製パン素材	インドネシア

食の安全・安心、環境保全の歩み

食の安全・安心のため、品質管理を徹底

不二製油では製品の品質・安全性向上を目指し、1983年に品質管理棟を新設し、品質管理業務を総合的な一貫体制に切り替えました。1994年には品質保証部を設置。また、商品の開発から設計、製造、検査、および出荷までを対象としたISO9001の実践に取り組み、1998年には食品業界で初めて、全事業部門でISO9001の認証取得を実現しました。さらにトレーサビリティシステムの構築など、常に「食」の安全・安心を見守っています。

品質管理棟（1983年）

コ・ジェネレーションシステム導入で環境保全に取り組む

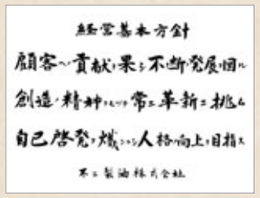
省エネルギーについても早期から積極的に取り組んできました。1974年には「生産量を落とすことなく、重油の消費量を半分に減らす。」という目標を設定。余熱利用、保温による放熱防止など、設備面からの省エネを図るとともに、全ての工程で節減意識を高めていきました。さらに、一つのエネルギー源から電気と熱など二つ以上の有効なエネルギーを取り出して利用するコ・ジェネレーションシステムに着目。ガスタービン発電による廃熱を利用して蒸気を発生させ、その熱を工場内で再利用するシステムを導入することを決定しました。

工事はまず、蒸気ボイラーと自家発電用ボイラーの燃料を重油から都市ガスに切り換えることから始まり、続いて、出力5,300kwのガスタービンを設置。そして1994年、不二製油のコ・ジェネレーションシステムは本格的に稼働を開始し、2004年には4号機・5号機まで導入しています。窒素化合物やCO_2の排出量も大幅に低下し、大気汚染、地球温暖化問題などに対応した、環境のクリーン化にも大きく寄与することができました。

コ・ジェネレーションシステム1号機

人材育成の歩み

全社活動で意識改革を推進「熊取研修所」が創造の芽を育む拠点に



経営基本方針

不二製油では、経営基本方針「創造の精神をもって常に革新に挑む」とあるように、創業時から創造力を生む企業風土の確立を目指してきました。その一環として、1983年から全社的に取り組んできたのがCQC（CHALLENGE（挑戦）・QUALITY（品質）・COST（価格））運動。これは社員の意識改革を図るのを目的に、CC（小集団）活動、提案制度、部門革新運動が一体となり、推進されました。1987年から生産部門ではTPM（全員参加で総合効率化を目指して小集団活動を中心とする生産保全）活動をスタート。また、部門ごとに3N（新製品・新市場・新システム）運動も展開するなど、それぞれの部門が具体的な実行プログラムに沿って運動を推進してきました。こうした取り組みは、総合的な品質管理と生産部のモチベーション向上を目指したPIC活動や、お客様の満足度を向上させるQR（クイックレスポンス）運動、女性の活躍を推進するFAN（Fuji Active Network）活動へと引き継がれ、人づくりをベースに企業の発展を目指す不二製油の企業風土を醸成しています。

一方、人づくりを重視する不二製油にとって創造の芽を育む「場」といえるのが、1985年に完成した熊取研修所。小高い丘の上に建ち、緑の木々に囲まれた研修所は、約3万平方メートルの敷地に大小3室の研修室のほか、食堂棟や27室の宿泊棟を完備しています。ここでは規律や仕事の基本、組織の中での役割分担などを体得するための研修プログラムを実践。創造性を備えたリーダー型人材育成を目指す不二製油のシンボリックな拠点となっています。

熊取研修所

マネジメント報告

コーポレート・ガバナンス
透明性の高い健全な経営の実現 …… 18
コンプライアンス
信頼される企業のための体制づくり …… 20
リスクマネジメント
リスクの的確な把握と適切な対応 …… 21
品質保証
原材料から販売までの徹底した品質管理 22
技術経営
新素材の開発により社会に貢献する …… 24

透明性の高い健全な経営の実現

透明性の高い健全な経営の実現に取り組み、企業価値を高めるために、
コーポレート・ガバナンスの充実、内部統制システムの整備に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制

基本的な考え方

不二製油は、透明性の高い健全な経営の実現に取り組み、株主価値を継続的に高めることをコーポレート・ガバナンスの基本的な考え方としています。そのために、経営の効率化、意思決定の迅速化、タイムリーな情報開示、組織体制の整備やコンプライアンスをより一層図ることが重要と認識し、必要な施策を実施しています。

経営体制

経営に関する重要事項の意思決定機関および監督機関として取締役会を設置しています。取締役会では、重要事項の審議、決議を行うとともに取締役の執行状況を監督しています。また経営の監視・監督機能の強化のため、社外取締役を選任しています。

経営会議は、経営に関する重要事項について十分に審議し、監視することで、業務遂行の法令遵守および効率的な遂行が実施できる体制を整備、強化しています。

リスク管理体制としては「安全品質環境」「コンプライアンス」「リスク管理」「情報開示」の担当役員を任命し、リスクの低減および回避のための諸施策の実施を行っています。

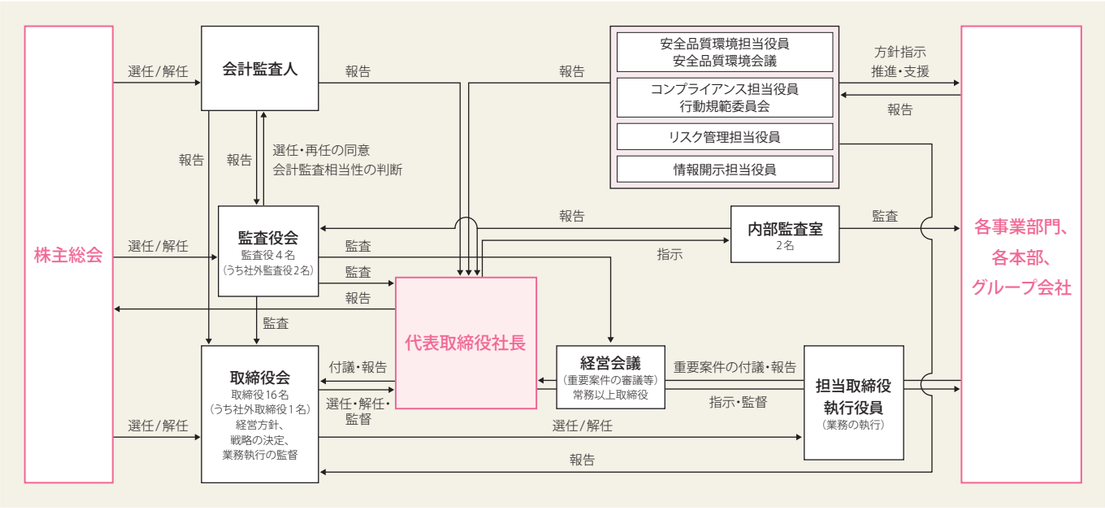
監査体制

監査役は、取締役会だけでなく、社内の重要な会議に常時出席するほか、代表取締役との意見交換、事業部門やコーポレートスタッフ部門へのヒアリング、子会社の調査、会計監査人との連携をとりながら監査の実効性と効率性の向上を図っています。

社外監査役を選任するとともに、さらに透明性を高め、良質な経営の実現に向けて6月22日の定時株主総会で独立役員を指定しています。

内部監査室は、「内部監査規程」に基づき、内部統制システム・プロセスの整備と運用状況を監査し、監査結果については、代表取締役、監査役および関連部署へ報告するとともに改善提案を行っています。

■コーポレート・ガバナンス体制図



内部統制システム

基本的な考え方

不二製油は、業務の有効性・効率性、財務報告の信頼性、関連法規の遵守、財産の保全、リスク管理を徹底するため、内部統制システム・プロセスの構築、整備を行っています。

内部統制システムの整備状況

1.「企業理念」「経営基本方針」「行動規範」を定め、社員への徹底を図っています。
2.「コンプライアンス担当役員」をおき、行動規範が企業の風土として定着するよう教育・研修を通じて周知徹底を図っています。コンプライアンスに反する行為があり、職制を通じて是正が機能しない場合は、「社内通報制度」により通報するものとし、通報することで不利益がないことを確保しています。また、「内部通報規程」を定め、外部の弁護士事務所にも「通報窓口」を設置し、運用面での実効性を図っています。
3.「文書管理規程」「情報管理基本規程」その他社内規程の定めるところにより、文書を適切に保存及び管理しています。
4.「リスク管理担当役員」を置き、「不二グループリスククライシス管理規程」を定めてリスク管理体制の構築及び運用を行っています。
5. 職務分掌、決裁権限規程などの社内規程に基づき、会議体で意思決定プロセスを明確にしています。
6. 組織ごとのミッションや業務プロセスを評価、管理、牽制するとともに、モニタリング機能により内部統制システムの有効性を継続的に監視しています。
7. 内部統制システムが適性に機能することを継続的に評価し、改善を図っています。

CSR経営の推進

2008年3月、中期経営計画「革進・実行 2010」において、「CSRの推進」が重点課題として発表されました。CSRの推進に向け、コンサルタントを起用し社内21部門へのヒアリングを実施、「CSR現状分析」を行いました。「CSR現状分析結果報告書」を基に、12名の社内横断タスクフォースメンバーと議論を重ね、不二製油のCSR課題マップから13項目の課題を抽出しました。この13項目の課題解決に向けた全社的な取り組みを図るため、CSR体制の構築を進め、2010年4月にCSR広報部（現CSR推進室）を設置しています。

今後は行動規範委員会などの専門委員会や各部門との連携を強化するとともに、次期中期経営計画（2011年～13年）において、CSR課題への施策、アクションプランの策定を行い、CSR活動のPDCAをスタートさせる予定です。また、CSRビジョン、CSRの社内浸透活動も展開していきます。

13のCSR課題項目

①CSR観点が取り込まれた研究開発
②健康や食文化に貢献する食の創造
③原料調達・サプライチェーンマネジメント
④ステークホルダーとの対話
⑤環境対応商品の開発・販売
⑥社内コミュニケーションの活性化
⑦人事制度の改定と整備
⑧人材育成の推進
⑨人材の多様化の推進
⑩企業理念の浸透と風土づくり
⑪環境マネジメントの推進
⑫コンプライアンスの整備、徹底
⑬ガバナンスの構築

信頼される企業のための体制づくり

お客様や社会から信頼され「企業理念」を実現するために、
コンプライアンスの推進と強化に努めています。

コンプライアンス推進体制

基本的な考え方

不二製油グループは、「安全・品質・環境」を経営の前提に、日々、商品・サービスをお客様にお届けしています。高い倫理観を持って企業活動を展開し、社会に貢献するために、「不二製油グループ行動規範」を2003年2月に定め、コンプライアンスの基本として活動しています。

不二製油グループ行動規範

1 ルールを守ります。
- 法令はもちろん社内ルールを守り、良識に基づき行動します。
- 他人の権利を尊重します。
- 製品・サービスの社会性について配慮します。

2 正直に行動します。
- 嘘はつきません。
- 常に正直に、信頼を得られるよう行動します。
- 社会にとって必要な情報は自主的に正確に公表します。

3 公正に行います。
- 合理的で公正な取引を行い、自己責任に基づく行動をします。
- 公私混同せず、不正を疑われることはしません。
- その地域の文化や習慣などを尊重します。
- 人格や個性を尊重します。
- 違法な勢力とは接触を持ちません。

行動規範委員会

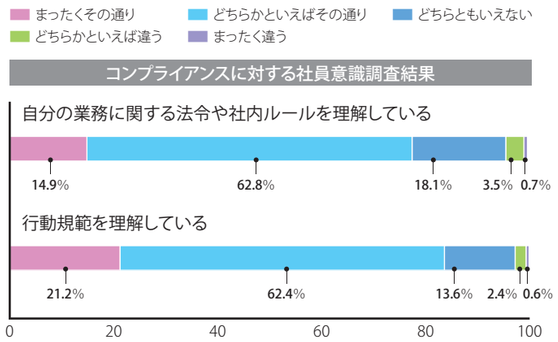
コンプライアンス推進体制として、常設の行動規範委員会を設置しています。行動規範委員会は3カ月に1回開催され、状況の把握とグループ横断的な推進体制を構築しています。「コンプライアンス担当役員」が委員長を務め、7名の委員で構成されています。行動規範委員会は、不二製油グループ全体の「行動規範」に関する業務を統括するとともに、「行動規範」に関する重要事項を審議し、社長、取締役会に具申します。また内部通報制度を運用し、通報に対処し必要な措置を行います。さらに行動規範の周知徹底を図り、企業風土としての定着を支援しています。年1回浸透状況を把握するためのコンプライアンスレビューを行い、取締役会に報告しています。

コンプライアンスの強化

企業風土への定着

行動規範の徹底並びに企業風土への定着のため、人事研修や部門研修を通じて周知・啓発を図っています。

2008年8月には、不二製油グループの社員1,571名を対象に社員意識調査を実施しました。コンプライアンスの浸透状況についても調査を行い、課題を把握し教育・研修の充実や意識啓発活動の向上などの施策に取り組んでいます。



内部通報制度

「内部通報規程」を策定し、各種法令や行動規範などに違反するような行為があり、職制ラインを通じて是正できない場合に相談・通報を受け付ける「内部通報制度」を設けています。社内窓口は行動規範委員会、社外窓口は外部の弁護士事務所が担当しています。通報者のプライバシー保護に配慮し、相談・通報内容については行動規範委員会が十分な調査を行い、適切に措置しています。2009年度は4件の通報、3件の相談がありました。

リスクの的確な把握と適切な対応

事業を持続的に営むことができるように、あらゆるリスクを把握し、
最小限に止める体制を整備しています。

リスク管理体制

基本的な考え方

不二製油は、事業を継続的に運営し、「企業理念」の実現に向けて取り組むため、企業活動に内在する各種リスクを洗い出しかつ把握し、適切な管理を行います。万一クライシス（リスクの顕在化）が発生した場合には、その損害や被害を最小限に止め、早急に適切かつ効果的に対処し、経営資源の保全及び社会的責任を果たすことを基本的な考えとしています。

リスク管理の体制

リスク管理を統括する「リスク管理担当役員」を置き、年1回不二製油グループのリスククライシスレビューを行い、取締役会に報告することで、事業活動に潜在するリスクを洗い出し、分析評価を行って対策を講じています。万一、大規模な事故や災害などの危機が発生した場合は、「リスククライシス管理規程」に則り、状況に応じて対策本部を設置し、従業員や地域社会の安全を守るとともに迅速な復旧を図る体制を構築しています。

リスク管理の強化

大規模災害への対策

不二製油では、災害発生時にメールで従業員の安否を確認できるシステムを導入しています。大規模地震への対策としては設備・備品の整備に加え、リスクアセスメントの導入、設備診断の実施や防災管理を強化しているほか、年4回、危険予知訓練や災害事例研修による安全教育を実施しています。

また、大規模地震や新型インフルエンザ発生時への対応として、事業を継続、早期復旧するために、優先すべき事業を特定するなど「事業継続計画（BCP）」の策定を進めています。

情報セキュリティの強化

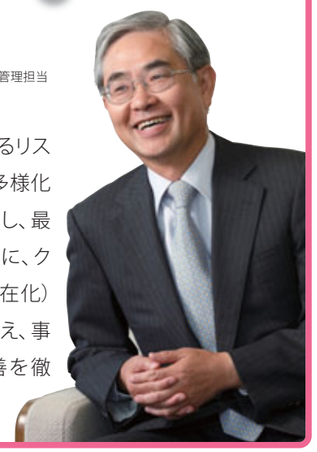
「情報管理基本方針」「情報管理基本規程」を2004年に制定し、情報セキュリティの重要性と適性な情報管理などについてイントラネットで告知し、従業員の周知徹底と意識向上を図っています。2009年は「情報システムセキュリティ運用規程」を改訂し、情報漏洩防止対策として、①事業活動におけるパソコンの全操作を記録②USBメモリなど外部記憶メディアの利用制限③メール運用ルールの強化に取り組みました。

個人情報管理の徹底

「個人情報保護規則」および「プライバシーポリシー」を2004年11月に制定し、個人情報の保護に努めることを社会的責務として認識し、管理の徹底を図っています。原材料調達の電子取引は、ログ管理・ID管理でお取引先様情報を確実に保護しています。通信販売「ソヤファームクラブ」のお客様情報は、プライバシーマークの認証を受けた業務委託先を選定し、機密保持契約書を締結した上でデータを管理しています。

voice
担当役員の声

常務取締役　管理本部長　リスク管理担当
山中 敏正 Toshimasa Yamanaka



事業活動に潜在するリスク、事業拡大に伴い多様化するリスクを洗い出し、最小化を目指すとともに、クライシス（リスクの顕在化）が発生した場合に備え、事前対策と継続的改善を徹底しています。

原材料から販売までの徹底した品質管理

食品企業の存続基盤である「安全・品質・環境」を経営の前提に、厳格な品質管理、
トレーサビリティシステムの拡充に取り組んでいます。

「品質」に対する考え方

不二製油の品質に対する基本精神は、安全で信頼のおける、顧客に満足していただける製品をつくることです。この基本精神に基づいて、1996年に「品質方針」を定めました。また、品質方針を各部門で展開するために「品質指針」を定め、品質の向上に努めています。

不二製油の品質方針
「顧客満足を実行しましょう」

品質指針

1 質の高い提案営業と情報収集を進め、潜在的な顧客ニーズを引き出し、新市場の構築を行う。
2 創造的でタイムリーな製品及び技術開発を行う。
3 法を守り、ルールを守ることで、安全で安心できる安定した品質の製品を作り込む。
4 製品づくりに、品質と環境の調和を図る。
5 課題の本質に衆知を集めて問題の再発を防止する。
6 ひとつひとつ真意の伝わるコミュニケーションを図る。

お客様視点による品質保証体制

不二製油では、各部門に「品質管理グループ」を設け原料調達から生産、出荷までの各工程で、当社の規格・基準をクリアしているかを厳しくチェックしています。また、独立機関として「品質保証部」を設置し、全社横断的にお客様の視点で製品を検証し、品質を保証する体制を構築しています。

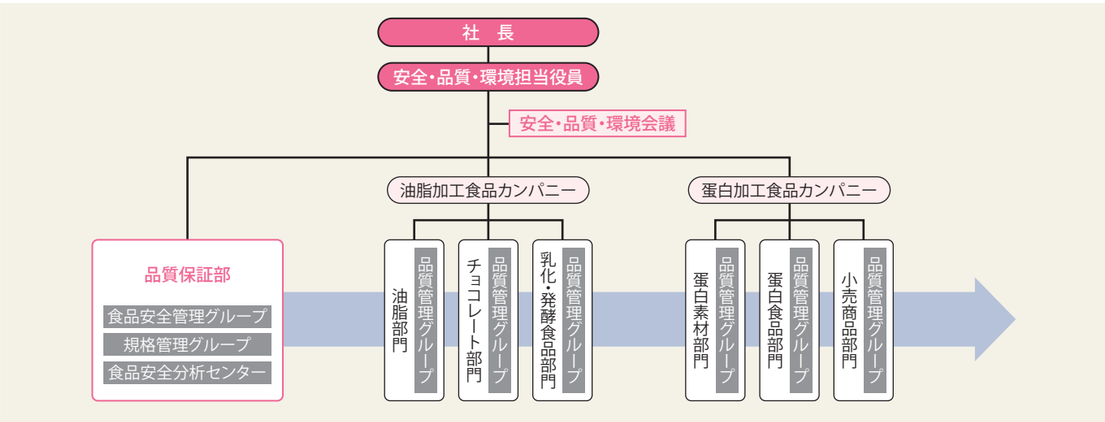
「安全・品質・環境会議」による情報の共有化

経営トップをはじめ、不二製油の国内担当者が集まる「安全・品質・環境会議」を毎月1回開催しています。また、国内グループ会社の担当者も加えた「不二グループ安全環境会議」を年2回開催しています。これらの会議を定期的に行うことで情報を共有化し、品質の改善・向上に努めています。

「品質インスペクション」で徹底した品質管理

不二製油では、国内外の工場および製造委託先の品質保証体制を維持・強化するために、定期的な「品質インスペクション」を実施しています。約200項目のチェック表をもとに自主点検を行った後、品質保証部の食品管理インスペクターと関連部門の生産部長が現地を視察し、書類や記録も含めた監査を行っています。評価はA～Eの5段階で行い、不適合箇所がある場合は速やかに改善するよう指導しています。2009年度は国内全工場と海外グループ6社で実施しました。

■品質保証体制図



安全性を高める徹底した品質保証

品質マネジメントシステム

不二製油グループでは、国内13事業所、海外9事業所で品質マネジメントシステムの国際規格ISO9000シリーズの認証を取得しています。海外の事業所ではHACCP（食品の衛生管理システム）の認証取得を進めているほか、国内の事業所でもHACCPの考え方を取り入れて、製品の安全性をより高めるように努めています。

なお、安全環境本部が担当してきたISO14001（環境マネジメントシステム：P39参照）を含むISOシリーズは、2010年4月からISO推進室が推進・管理を行っています。

品質保証システム

不二製油では、2003年に①食品の安全性の向上、②業務の効率性の向上、③情報の信頼性の向上、を主な目的として、製品の品質・履歴・所在の把握の検索が可能な「トレーサビリティ（追跡可能性）システム」を構築しています。

2008年には、このトレーサビリティシステムと品質情報管理システムとの一元化を行い、2つのシステムを連携させる独自の品質保証システムを確立しました。全プロセスに原材料情報が加わったことにより、迅速かつ正確な情報開示と対応が可能になっています。なお、同システムによりトレーサビリティの高度化を実現したことが評価され、2008年10月に第17回食品安全安心・環境貢献賞（主催：日本食糧新聞社、後援：農林水産省・環境省）を受賞しています。

食品安全分析センター

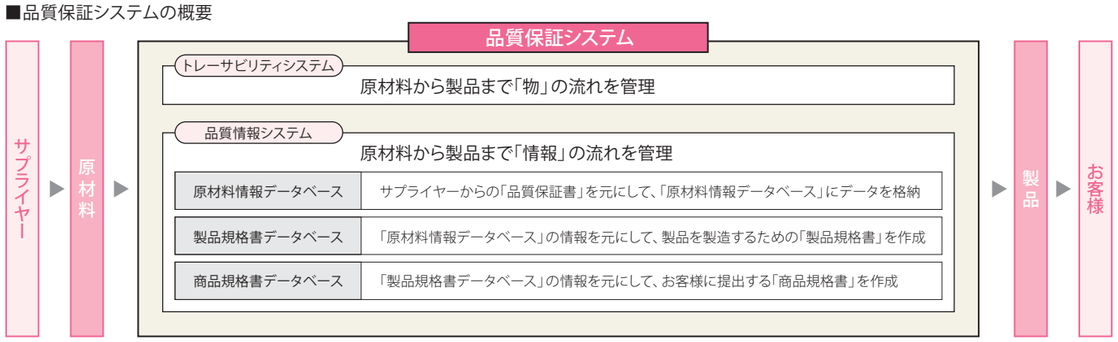
食品安全分析センターでは、原材料や製品の安全・安心を確保するために最新鋭の装置と高度な技術で、アレルギー物質や遺伝子組換え作物、病原性微生物、食品添加物などに関連した高精度な検出・分析を行っています。特に海外から購入された主要原材料は、充分に安全性を確認し品質が保証されたものを使用しています。

食品中に残留する農薬・動物用医薬品等に関するポジティブリスト制度への対応としては、食品衛生法に基づいて、使用する原材料の農薬等に関する情報の収集に努め、適切に管理されたものを使用することとし、主要原材料について年1回の分析検証を行っています。

また異物分析においては科学的分析により、迅速な安全性の確保と製造工程への異物混入の再発防止に寄与しています。

最新の機器を使った高度な分析を行っています

■品質保証システムの概要



新素材の開発により社会に貢献する

研究開発・技術開発により、常に新素材・新製品・新技術を生み出し
社会に貢献する技術経営を目指しています。

技術経営の推進

不二製油は創業以来、環境負荷の低い植物原料を独自の研究開発と技術開発により、食の創造を行うことで社会に貢献し、事業を拡大してきました。

不二製油の目指す技術経営では、コア技術の深掘研究が新素材を生み出し、その新素材が販売力を含むソフト提案力を育て、新素材を生む過程で技術が育つと考えています。これを当社では「技術、素材、ソフト提案力の上昇スパイラル」と呼んでいます。

今後さらに、新素材を創出し、最近特に注目されている健康・栄養、環境対応分野でお客様への貢献を目指します。

また、不二製油は、独自の技術を財産と捉え、知財権の取得に積極的に取り組んでいます。

■特許公開件数

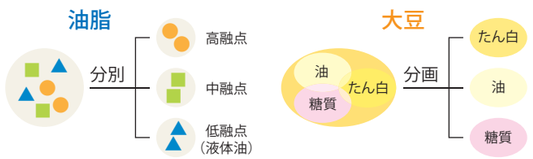
	特許公開件数	食品分野での順位
2006年	84件	3位
2007年	81件	2位
2008年	71件	4位

技術フィロソフィーは「分けること」

不二製油の技術理念は「分別、分画」つまり植物原料を分けることであり、新製品創出の第一ステップであると考えています。天然の素材を単純化することで、資源を最大限有効に活用すること。私たちは「分別、分画」により広く社会に貢献するものと認識しています。

■分別の思想（不二製油の技術理念）

分別、分画が新製品創出の第一ステップ



油脂事業による貢献

不二製油は創業以来、南方系油脂の研究開発、技術開発を行い、特にパーム油については、独自の技術を確立してきました。世界的な人口増加、新興国での消費拡大など油脂の需要が急速に増大する中、量的に応え得る唯一の油脂原料はパーム油であると言われています。

また、欧米での世界的なトランス酸排斥の動きに連動して、パーム油の加工技術・利用技術は今後も発展していくものと思われ、当社の技術が広く社会に貢献できるものと考えています。

さらに、栄養面でもパーム油特有のカロチノイドやトコトリエノールは生体内抗酸化性や抗ガン機能などでも注目を集めています。

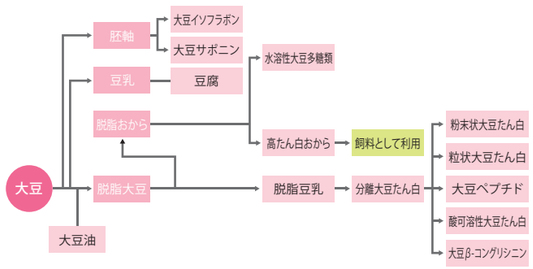
大豆たん白事業による貢献

不二製油は、大豆を油脂原料ではなく、たん白素材として事業展開を行い、栄養素としての良質な植物性たん白素材の可能性を追求してきました。そして、古来より日本人の常食である大豆を科学的に探求してきました。

食料資源増産の限界、水資源とエネルギー枯渇の危機が叫ばれ、環境汚染拡大への危惧が現実味を帯びてくる中、大豆の栄養面での見直しもさることながら、資源的価値、環境的価値への期待が高まってきています。

不二製油は、これまで培った分画をはじめとする大豆の加工技術で広く世界に貢献したいと考えています。

■たん白加工食品の生産過程における資源の有効利用



社会性報告

お客様とともに
お客様への責任 …… 26
積極的な情報発信 …… 27
従業員とともに
人事の基本的な考え方／雇用状況 …… 28
人材育成への取り組み …… 29
働きやすい職場づくり …… 30
人材の多様化の推進 …… 31
いきいきとした風土づくり …… 32
お取引先とともに
公平・公正な取引で信頼関係を築く …… 34
株主・投資家とともに
適切な利益還元と情報開示 …… 35
地域社会とともに
地域社会との共存共栄 …… 36

お客様への責任

「二つとない価値」をお客様に提供できるよう、提案営業を通じて、
双方向コミュニケーションの深化に努めています。

基本的な考え方

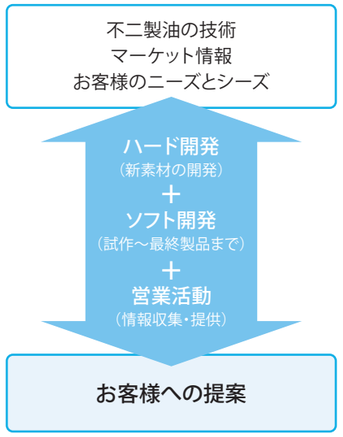
油脂と大豆を基礎原料に、安全で高品質な製品を提供していきます。常に「二つとない、をつくる。」を探求し、お客様に「健康・豊かさ・おいしさ、そして美しさ」を提供していきます。

独自の提案営業でお客様ニーズに応えます

不二製油は、お客様への貢献を第一と考え、お客様との密接なコミュニケーションを通して得られたご意見、ご要望に素早くお応えするとともに、新素材、新製品などの新しい価値を提供する提案営業に取り組んでいます。

また、更なる信頼関係を築くため、お客様の様々な課題解決に取り組むソリューション型の提案営業を目指しています。

■不二製油の提案営業



フジサニープラザ

1977年、不二製油は東京支店内に初めて「フジサニープラザ」を開設しました。お客様とコミュニケーションを図りながら、新メニュー・新製品を共同開発するスペースで、提案営業の重要な役割を果たしています。

現在は、阪南、つくば、シンガポール、上海でも展開し、多数のスタッフが日々新しい提案に向け研究に取り組んでいます。

「他社ではつくれないものをつくる。」という方針を掲げ、最終製品とレシピまでご提案するのがフジサニープラザの特徴です。当社の製品をご使用いただくことでお客様にどのようなメリットがあるかを、素材だけでなく最終製品までご提案することでより深くご理解いただいています。

フジサニープラザは当社の素材を活かし、よりおいしい製品をいかに作れるか、そしてお客様にいかに喜んでいただけるかを追求しています。

フジサニープラザ

海外市場調査と食の情報発信

お客様に常に新しい食の情報を発信するため、海外で市場調査を行っています。海外で得られた情報は、レポートにまとめお客様へ提供しています。

これらの市場調査から生まれた商品には、ティラミスやクレメダンジュなど数々のヒット商品があります。

column　提案営業から生まれた「ラクレール」

「ショウケースや店舗内の照明を明るくして、よりおいしさを演出したのだが、かえってその光でケーキのクリームの味が変わってしまった。これを解決できるのは不二製油しかない。」

有名洋菓子店のオーナーシェフからの電話に営業担当者は、すぐに開発部と相談。どの洋菓子店も同じ悩みを抱えているはずと開発に着手しました。2年がかりで開発された「ラクレール」は、光に強い、おいしさ維持機能を持った画期的な植物性クリームとなりました。全国洋菓子店で採用され、大手洋菓子メーカー、コンビニエンスストアへと広がり、消費者の皆様においしいケーキを提供することができました。

お客様のニーズを聞き、当社の技術を活かし開発する、そしてその製品を使った様々な洋菓子をお客様に提案する。これが不二製油の提案営業なのです。

積極的な情報発信

各種セミナーやキャラバン、勉強会などを通じて、
お客様への有益な情報提供に努めています。

お客様との連携・情報発信

油脂セミナーの開催

2010年7月、お客様の製品開発・海外展開に役立てていただけることを目的に、「油脂の健康と機能」をテーマに油脂セミナーを開催しました。安全・安心、健康、環境を切り口に、油脂の最新技術や新製品を紹介し、「ヨーロッパ、中国の技術・市場動向」に関する講演を行いました。

油脂セミナー

パーム研修ツアーの実施

お客様に「安全・品質・環境」を最優先する海外の生産拠点及びパーム農園を見学していただくとともに、油脂原料、生産、品質管理、製品、輸送等に関する勉強会を実施しています。

パーム研修ツアー

「チョコレート研究会」の定期開催

2004年度より、チョコレートをご使用のお客様に対してチョコレート研究会を実施しています。2010年は初めてインドネシアのカカオ農園視察を行いました。参加者からは農園の品質向上への取り組みや、カカオ豆の管理などについて活発なご質問をいただく有意義な視察となりました。

「水産キャラバン」の定期開催

不二製油では、お客様への情報発信として、1993年以来18年連続で「水産キャラバン」を実施しています。

販売と開発がチームを組んで、水産練製品業界のお客様約80社を毎年訪問し、大豆たん白を利用した商品アイデアをご提案しています。この中から数々のヒット商品が生まれてきました。このキャラバンはすっかり定着し、今や商品開発になくてはならない存在となりつつあります。

水産キャラバンの提案商品群

栄養士との勉強会の実施

大豆のタンパク質は栄養バランスに優れた良質なタンパク質です。以前は、卵や牛乳のタンパク質に多少劣ると評価されていましたが、1985年に発表されたWHO（世界保健機構）の見直しでは同等の栄養価という評価を得ました。

さらに大豆のタンパク質には、コレステロールの高い人の値を調整する機能もあります。大豆にまつわる最新の情報を、食の現場で活躍されている栄養士の方々に伝えるために勉強会を実施しています。

column　フジオイル ヨーロッパがFiE2009の製菓部門賞を受賞

欧州食品素材展（FOOD INGREDIENTS EUROPE2009）で不二製油グループ会社のフジオイル ヨーロッパのフィリング／クリーム用油脂「レデュサット」が製菓部門賞を受賞しました。

従来品はこの用途に必要な物性を得るために一定量以上の飽和脂肪酸の含有が必要でした。

一般的に、油脂内の飽和脂肪酸を多く摂取しすぎると心臓病のリスクが高くなると言われています。

「レデュサット」は従来の油脂より飽和脂肪酸を60%低減したものです。欧州ではその食生活から飽和脂肪酸への健康面からの意識が高く、数ある企業の中でこの賞を受賞したことにより、今後更なる販売拡大が期待されます。

授賞式

人事の基本的な考え方／雇用状況

「二つとない個性」の尊重を基本に、活気ある元気な企業であり続けるために、
従業員がやりがいのある仕事に取り組めるよう、人事諸制度の整備に努めています。

基本的な考え方

不二製油は従業員がやりがい、働きがいのある仕事を通じて、それぞれの力を最大限に発揮し、成長することが会社の成長につながるものと考えています。また、従業員の「二つとない個性」を尊重し、国籍や性別などの不当な差別を受けず、公正な機会が提供され、不二製油の価値観を共有し継続的に成果を生み出す人材の育成を図り、「いきいきとした会社」の実現を目指しています。

こうした考えに則って、人事諸制度や職場環境の整備、風土づくりに取り組んでいます。

複線型人事制度の導入

不二製油では、従来の「単線型人事制度」を見直しました。会社を取り巻く環境や社会情勢、当社の事業内容、働き方が急激に変化しており、従来型の人事制度では対応が困難であり、現行制度の課題を解決し、従業員の意欲と満足度を高め、経営基盤を強化する人事制度への改定が必要でした。労使で構成する人事諸制度検討委員会を発足させ、「不二製油の期待し求める人材像・目指す人事制度・目指す成果主義」を基に、長期的な観点から人事制度の問題や歪みを議論し、早期解決に向け取り組んできました。

2010年4月、コース別職能資格制度を導入し、「複線型人事制度」に移行しました。今回の改定では仕事の「役割」という視点を加味しました。「役割」を明確化することで、従業員それぞれが得意な分野でこれまで以上に能力を発揮し、役割を果すことができます。これにより従業員の活力を高め、会社の更なる成長と発展を図ることになり、また、従業員一人ひとりが「役割と能力」を軸とした評価を受け、習熟と成果に応じた適正な処遇に結び付けることができると考えています。

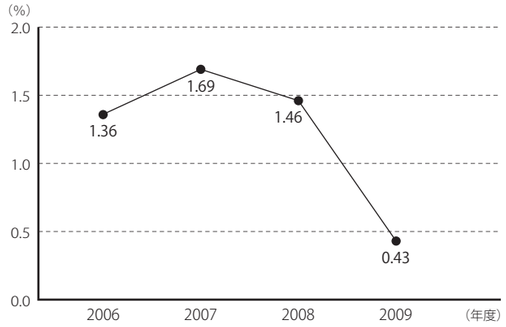
雇用状況

2010年3月31日現在、不二製油の正社員数（出向者を除く）は1,069名、準社員・契約社員200名、派遣社員は117名となっています。2009年の退職者（役員、定年退職者を除く）は21名（うち自己都合退職は5名）で、自己都合による離職率（正社員のみ）は0.4%となりました。

■従業員数内訳（2010年3月31日現在）　（人）

	男性	女性	計
役員（社外役員除く）	17	0	17
正社員	908	161	1,069
準社員	22	57	79
契約社員	106	15	121
派遣社員	16	101	117
平均年齢（正社員）	42歳3カ月	35歳9カ月	41歳4カ月
平均勤続年数（正社員）	19年0カ月	13年6カ月	18年2カ月

■自己都合による離職率（正社員のみ）



※ 離職率は、定年退職者を除く退職者を元に算出

■新卒採用者数　（人）

	07年度		08年度		09年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大学・大学院卒	13	6	13	9	11	6
高校・短大・専門学校卒	5	0	3	2	5	3
合計	24		27		25	

■不二製油　採用ホームページ

採用の最新情報をホームページに掲載しています。また、不二製油がどのような会社であるかをわかりやすく説明しています。

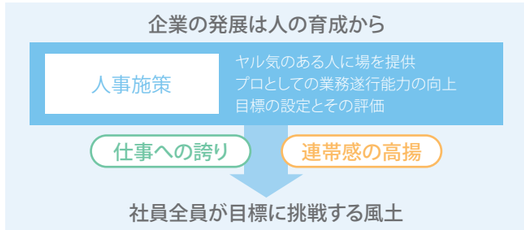
人材育成への取り組み

計画・目標の達成に向けて行動する人材を育成するため、
研修体系や諸制度の充実を図っています。

人材の育成に注力しています

今後さらに拡大する世界戦略に対応して、グローバルに活躍できる人材、経営の視点に立った思考・行動をする人材、失敗を恐れず自ら「革新」にチャレンジする人材を育成します。

新入社員・中堅社員・管理職と、よりスキルアップを図っていくための目的別研修の実施、選択型研修や研修助成の制度もあり、能動的に自己研鑽に励むことができます。



従業員全体のキャリアアップを目指します

社員が積極的にキャリアアップを考えるため、年1回「キャリアアップコミュニケーションシート」と「サブシート」を提出し、上司や人事部と面談を行っています。これは、今後のキャリアパスについて上司と話し合うもので、社員一人ひとりの能力開発に役立てています。また、「サブシート」は所属部署を経由せず、直接人事部に提出し、面談も行っています。

海外トレーニー制度

海外へ1年間語学研修をしながら、現地のグループ会社で実習し、グローバルに活躍できる人材を育成しています。

voice
海外トレーニー制度利用者の声

上海旭洋緑色食品有限公司　駐在
睦好 純子 Junko Mutsuyoshi

広い視点で仕事ができるようになりたい！

海外トレーニーに採用され、上海で1年間の研修がスタートしました。語学勉強をしながら、研修生として日々の業務を精一杯こなしました。研修を終え、現在は出向者として上海で財務の仕事をしています。日本では予想もしないことが起こることも少なくありませんが、現地や従業員との相互理解に努めています。日々、成長している自分を感じています。

役員メンター制度

女性社員の活躍推進の一環として、キャリア育成プログラム「役員メンター制度」を2008年に開始しました。2009年からは対象を男性にも拡大しています。この制度は社員であれば誰でも申し込みができ、役員との個別面談を通じて社員の成長を支援しています。

■研修体系

階層	階層別研修	目的別研修	選択型研修	研修助成他
役員	役員研修	部門研修 安全衛生教育		外部セミナー等への派遣
管理職	昇格者研修	組織長研修 係長研修 考課者訓練 経営塾 ネクストステージ支援研修 女性教養セミナー	財務分析研修（ベーシック） 財務分析研修（アドバンス） ロジカルシンキング	公的資格取得助成
監督職	問題解決スキル研修 昇格者研修	各性ステップアップ研修 開発基礎講座 若手生産技能職研修		通信教育受講助成
中堅社員	問題解決スキル研修	海外研修		
新入社員	新入社員・中途社員研修			
非正社員	コンプライアンス・ 不二を知ってもらう研修			

働きやすい職場づくり

従業員一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら仕事に取り組めるよう、
多様な働き方ができる制度の拡充に努めています。

ワークライフバランスの推進

個人の価値観やライフスタイルにあわせて、仕事と家庭を両立させ、いきいきと働くことができるために、体制づくりや制度の充実に取り組んでいます。

仕事と育児・介護の両立を支援

不二製油では、従業員が育児・介護を両立し、安心して働ける環境を整備し、制度拡充に努めています。育児に関わる短時間勤務制度を改訂し、3歳未満から小学校就学前に延長しました。

■休日休暇制度利用状況 （人）

	08年度		09年度	
	男性	女性	男性	女性
育児休職取得者数	0	5	3	4
育児者の短時間勤務利用者数	0	1	0	4
介護休業取得者数	0	1	0	0

不二製油は2010年6月9日に厚生労働省より次世代育成支援事業主として認定され、次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。これは、2005年より男性も含めた育児と仕事の両立支援に取り組んできたことが認められた結果です。

次世代認定マーク「くるみん」

voice
産休・育休取得者の声

品質保証部
原田 望 Nozomi Harada

産休・育休と取得させていただき、会社、そして職場の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。取得にあたっては、職場の上司に妊娠の旨を伝えると、「もちろん、仕事続けるよね!」と言っていただき、嬉しかったことを覚えています。今後は子供のことで残業ができない、突然の休暇など、会社には迷惑をかけることが増えますが、今の感謝の気持ちを忘れずに勤務を続けることができればと思います。

労働安全への取り組みを推進

生産部門長による「安全品質環境会議」と、国内グループ会社を含む全工場長による「不二グループ安全環境会議」を設け、全社・全グループでの災害防止に取り組んでいます。2009年度からは、リスクアセスメントを導入し、先取り安全と設備の本質安全に取り組んでいます。また、安全環境本部による国内外のグループ会社・工場への安全監察を定期的に進めています。不二製油・国内グループ会社の労働災害は前年の約半分に減少しました。

■不二製油・国内グループ会社災害合計 （件）

	2007年	2008年	2009年
不休災害	26	25	15
休業災害※	6	6	2
合計	32	31	17

※ 休業災害：休業1日以上の災害

健康増進の支援を行っています

法律で定められた一般健康診断、特殊健康診断を毎年実施しています。年代別のリスクにあわせるために、定期健康診断に代えて30歳以上の社員には成人病検診、40歳以上の社員には人間ドックを実施しています。2009年度の健康診断受診率は100%でした。

また、健康診断結果や長期休職者の状況、カウンセリング実施結果、次年度の目標設定などをまとめた衛生報告書を作成しています。また、再検診の受診をすすめるほか、各事業所で講習会などを開催しています。

メンタルヘルスケア対策

国内の全事業所に「こころの健康相談室」を設置し、外部専門機関のカウンセラーによるカウンセリングを定期的に実施しています。また、外部専門機関の相談室を利用できる体制もとっています。2009年度は、新入社員向けの研修を実施しました。

さらに、メンタルヘルス不調によって長期休職する社員を対象に、復帰支援システムを導入しています。

人材の多様化の推進

不二製油は多様性と人権を尊重し、従業員の意欲を高め、
能力を発揮できる職場環境の整備を進めています。

多様化の推進

不二製油は国籍、性別、年齢、身体的障がいなどにとらわれず、多様性と人権を尊重し、従業員の意欲を高め、能力を最大限に発揮できる職場環境の整備を進めています。

女性の活躍を推進する活動「FAN」

1999年、「不二製油の女性がはつらつと働ける環境」の実現を目指し、自己実現と会社への貢献を目的とした女性活躍推進委員会を設置しました。2000年6月には「不二アクティブネットワーク（FAN）」と名称を改め、男女差なく働ける環境づくりに取り組んでいます。

2009年はアンケートを実施し、その結果を踏まえ①育児短時間勤務制度の見直し②退職女性社員再雇用制度の導入の検討③男性の育児休暇取得の支援と推進④啓発活動に取り組みました。

2010年度FANメンバー

セクハラ・パワハラの防止

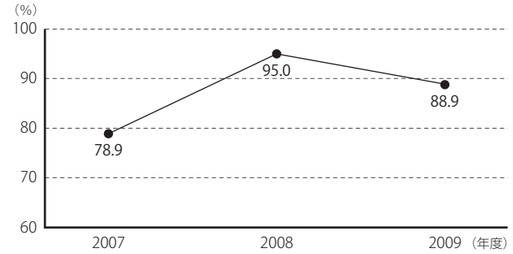
セクシャルハラスメントやパワーハラスメントを防ぐために、行動規範推進委員会では内部通報制度を設けています。また、各部門研修でのビデオ視聴や社員用ガイドブックの作成・配付、イントラネットやポスターを通じた啓発活動を行っています。

啓発ポスター

定年退職者を積極的に再雇用

定年退職した従業員が豊富な経験や技能を活かして働き続けられるように65歳までの雇用を可能とする再雇用制度を設けています。

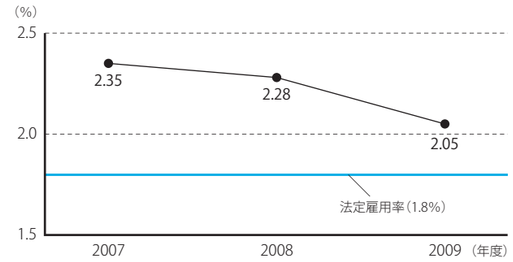
■再雇用率



障がい者雇用の促進

不二製油の障がい者雇用率は2010年4月現在2.05%と法定雇用率の1.8%を上回っています。今後も更なる雇用の維持、拡大に向けて、社員の意識付けや職場環境の整備を行っていきます。

■障がい者雇用率（2010年4月1日現在）



column 関東工場が笠間市の男女共同参画推進事業者に認定

不二製油の関東工場では、女性活躍推進委員会「FAN」の活動が評価され、2009年11月8日に茨城県笠間市から「男女共同参画認定事業者」の認定を受け、認定証をいただきました。

いきいきとした風土づくり

不二製油グループでは、企業理念、経営理念の浸透を図るとともに、
様々な活動を通じて、社員が明るくいきいきと活躍できる風土づくりに取り組んでいます。

いきいきとした生産現場づくり「PIC活動」

不二製油グループでは、1995年にISO9001認証取得に向けキックオフし、品質に重点を置いてきました。さらに国際レベルの競争力ある生産現場とするため、2007年に生産部門をサポートする「生産性推進室」を設置しました。2008年度からは若手への技能・技術の伝承や従業員のモチベーション向上を目的に、3S（整理・整頓・清掃）、ISO9001・14001の目的目標、TPM※1やTQC※2を踏まえた「PIC※3活動」を展開しています。

※1 TPM（Total Productive Maintenance）…全員参加の生産保全。生産システムの効率化を追求し、ライフサイクル全体を対象に“災害ゼロ・不良ゼロ・故障ゼロ”などあらゆるロスを未然防止する仕組みを構築
※2 TQC（Total Quality Control）…総合的品質管理
※3 Productivity Improvement & Challenge

組織長研修の実施

2008年9月～2009年3月、組織長を対象としたアンケート結果に基づき、現場の統計的分析法、機械設備保全、問題発見・解決手法、改善手法、OJT実践手法などに関する研修を行いました。2009年4月からOJTや生産プロセスの問題点分析などを実施しています。

若手にやさしい職場づくり

基礎的な知識や技術など300項目を簡潔にわかりやすく「ワンポイント・レッスン」として掲示し、現場のミーティングなどで役立てています。

入社5年未満の若手を対象に、1年間、安全・品質・環境、コスト、原料・製品、生産工程、機械保全、電気保全をテーマに研修を行っています。2009年度の第三期は、36名が受講しました。また、千葉工場や石川工場でも実施しました。

若手生産技能職研修

PIC活動発表会の開催

年2回、現場の問題点を発見し、その改善活動の成果を発表する「PIC活動発表会」を開催しています。テーマは、作業の改善や省エネ、給排水の削減、廃棄物の削減など環境に配慮したものが多く、海外グループからも多数のエントリーがあります。2009年は、第3回（7月）・第4回（10月）発表会が行われました。

PIC活動活動発表会の様子

お客様とともに感動を！「QR活動」

「QR（クイックレスポンス）運動」は、1995年6月、お客様の満足度を高めることを目的に、電話応対マナーの改善とレスポンス速度の向上に取り組みました。

現在では、「QR5原則（①心を込めてあいさつを②余裕をもって時間厳守③電話は素早く忠実に④メールマナーを守ろう⑤皆で考えようクレーム対応）」の徹底を図るほか、各地域で独自に運動を展開しています。またQRの基本はコミュニケーションであるとの認識のもと、工場見学会や他部署との交流会、スポーツイベントなどを実施しています。これらの活動を通して活気ある企業風土の醸成を目指しています。

QR活動は、各事業所のQR推進委員が中心となって運動を展開しています。年6回の「QR推進会議」、年2回のQR推進合宿では、方針や各地域の行動計画を確認、進捗状況を報告し、更なるQRの浸透に向けて検討を行っています。

「QRかわら版」による啓発

各地域で行われているQR推進活動を広く社員に知ってもらい、QRの浸透につなげるため、イントラネット上に「QRかわら版」を掲示しています。

QRかわら版

FUJI WAYの浸透

コンセプトブックの作成と配付

不二製油は、創業60年にして初めてコーポレートメッセージを掲げました。

会社の意志や思い、ビジョンを表す企業理念、経営基本方針、コーポレートメッセージを掲載したコンセプトブックを創業60周年に合わせて発行し、不二製油の全従業員に配付しました。不二製油の企業文化、企業精神を再確認し、全ての事業活動の基本となる価値観を共有するために、企業理念・経営理念の浸透を図っています。

不二製油グループとして価値観を共有するため、英語版、中国語版の発行も予定しています。

コンセプトブック

クレドカードの配付とFUJI WAYの掲示

不二製油の価値観を共有し、不二製油らしい風土づくりを目指し、社員が常に携帯できるクレドカードを作成しました。

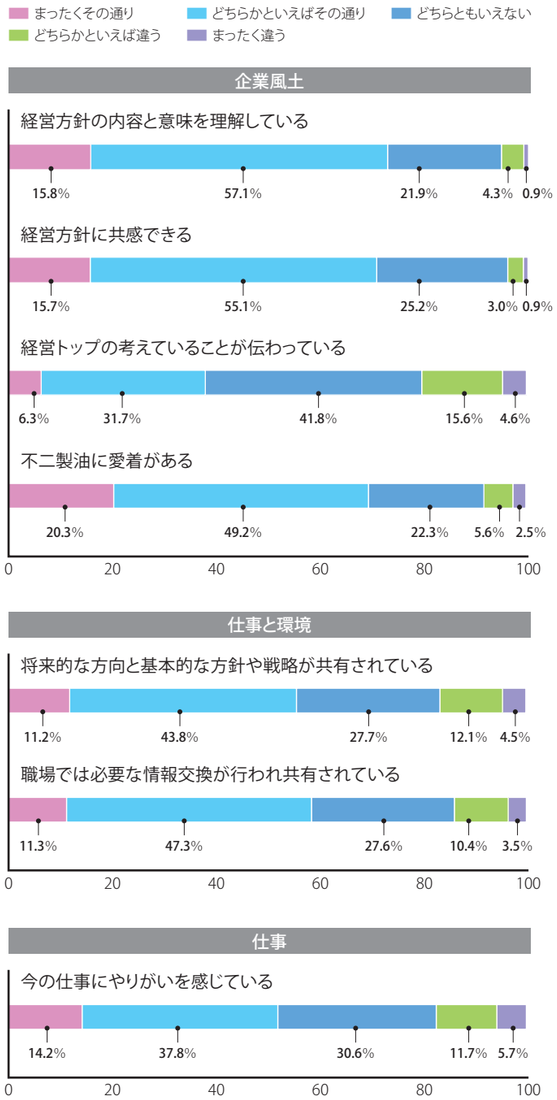
また全ての事業所では、企業理念、経営基本方針、コーポレートメッセージを記載した「FUJI WAY」を掲示しています。

クレドカード

FUJI WAY

社員意識調査の実施

2008年8月、社員意識調査を実施しました。仕事や組織に関して、どのような意識を持っているかの現状を明らかにし、組織風土の改善につなげています。



公平・公正な取引で信頼関係を築く

公平・公正な取引を徹底し、「二つとない信頼」の向上を図り、
お取引先の皆様とともに品質の向上、安全性の確保に取り組んでいます。

調達に対する基本的な考え方

不二製油では、海外から調達する植物性油脂、大豆、カカオなどの主原料を「原料部」、その他国内から調達する乳製品などの添加剤、工業薬剤、包装資材など約2,000品目を「資材部」が一括管理しています。取引にあたっては「購買基本方針」に則って公平・公正な購買活動を行うと同時に、お取引先とともに環境や人権にも配慮したCSR調達に取り組んでいます。

購買基本方針（CSR調達）

1 法令、社会規範を遵守しISO9001の原料部購買基準及び資材部購買基準に基づいて、巾広くお取引先から公平・公正な取引の下、良い品質の原材料を適正な価格で安定的に調達いたします。
（公平、公正、遵法・倫理性）

2 上記目標を達成するために、お取引先と共同の創造的活動により連携を深め共存・共栄を果たしていきます。（パートナーシップ）

3 持続的発展可能な社会の実現への貢献を目指すために地球環境や労働、人権などに配慮した調達を行います。（社会的責任）

お取引先とのコミュニケーション

お取引先との勉強会の実施（資材部）

資材部では、お取引先を講師に招いた勉強会を定期的に実施しています。お取引先と当社との連携を深めるとともに、最新情報の共有化を図っています。

勉強会の様子

お取引先感謝の集い（資材部）

お取引先に日頃の感謝の意を表するとともに、不二製油の事業状況や方針を共有していただくために、社長以下経営陣が出席し、2年に一度「感謝の集い」を開催しています。2009年は11月に開催。82社のお取引先にご参加いただきました。

感謝の集い

海外のお取引先とのより良い関係づくり

原材料の安定調達（原料部）

原材料を調達する際は、独自の原料購買基準に沿ってお取引先から品質保証書を取得し、品質規格・安全性を評価しています。新たなお取引先については、現地工場を視察し、安全性や品質管理、製造工程を細かくチェックしています。

また、毎年定期的に技術者同行による現地工場視察を行っています。2009年度は、東南アジア、中南米やアフリカ、欧州、米国などへ視察を行いました。

2010年1月からは南方系油脂原料専任の駐在員がシンガポールに常駐し、東南アジアを中心としたお取引先との密接な関係の維持・向上に努めています。

現地のお取引先と駐在員による打合せの様子

「持続可能なパーム油のための円卓会議（RSPO）」への参画

RSPOは、持続可能なパーム油産業の成長を目的とする国際的な非営利団体です。不二製油グループは、植物性油脂の原料としてパーム油を使用しているため、2004年に正会員となり、生産国の環境や地域社会への影響に配慮したパーム油生産の運営に協力しています。

適切な利益還元と情報開示

株主・投資家の皆様からの信頼に応えるために、
適時・適切な情報開示やコミュニケーションの向上に努めています。

株主・投資家とのコミュニケーション

基本的な考え方

透明性の高い健全な経営の実現に取り組み、株主価値の持続的な成長を図り、安定的かつ適切な利益還元に努めること。また、公正で正確な会社情報を適時的確に開示し、広く積極的なコミュニケーションを図ることを、基本的な考えとしています。

株主総会の活性化

不二製油の株主総会は、集中日を避けて開催しています。2010年の株主総会には、585名の方にご来場いただきました。総会後には、役員と株主とが直接対話できる場として、展示・試食などを含む株主懇親会を実施しています。不二製油は株主との双方向コミュニケーションの機会を大切にしており、事業をより一層ご理解いただくことに注力しています。

また、ホームページには召集通知を掲載しているほか、株主総会後は総会の内容、決議事項を掲載するなど、迅速かつ公平な情報開示を行っています。

株主総会

株主総会試食会場

決算説明会の開催

機関投資家・証券アナリストの皆様を対象に、第2四半期ごと（第2四半期、年度）に社長出席の「決算説明会」を開催しています。決算説明会では業績や今後の経営戦略を説明し、適切な情報を提供するよう努めています。

決算説明会

株主優待制度の実施

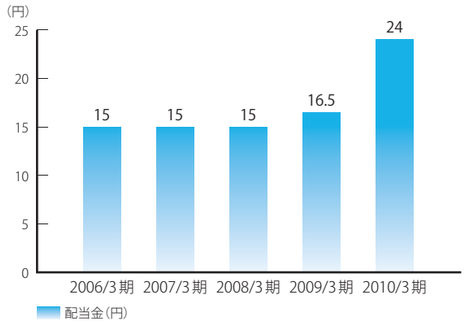
より身近に不二製油グループを知っていただくために、毎年3月31日時点で100株以上保有されている株主を対象に、保有株式数に応じて、当社グループ関連製品を贈呈しています。

株主への利益還元

配当政策の基本的な考え方

不二製油は株主への利益還元を経営の重要課題の一つとして認識し、長期的な視野に立った安定的かつ適正な利益配分を行うことを経営の基本方針としています。2010年3月期の年間配当金は、一株当り24円とし、前期比7.5円の増配となりました。

■配当金の推移



voice
IR担当者の声

経営企画本部　IR室長
柳井 哲郎 Tetsuro Yanai

株主・投資家の皆様への適時・適切で公平性のある企業情報の開示に努めています。また、双方向のコミュニケーションを通して不二製油グループに対し正しい理解をいただくとともに、期待と信頼にお応えする努力を続けています。

地域社会との共存共栄

地域社会との共存共栄を目指し、
社会貢献活動や地域交流活動を展開しています。

大豆たん白質に関する研究を支援

1979年、不二製油は、大豆たん白質の研究振興を目的に、「大豆たん白質栄養研究会」を設立し、栄養学的・食品学的研究に対する助成金の交付を開始しました。その後、研究対象領域が拡大したため、1991年に「大豆たん白質研究会」と改称しました。さらに、1997年には「不二たん白質研究振興財団」（文部科学省所管）となり毎年研究報告会を開催、報告会記録誌「大豆たん白質研究」を発行しています。

2009年度は34件の研究助成を行いました。

公開講演会の様子

ボルネオ島の生態系保全活動を支援

2009年度から伊藤忠グループが社会貢献事業として取り組んでいる「ボルネオ島の熱帯雨林再生及び生態系保全活動への支援」に賛同し、不二製油グループは寄付を通じて自然保護団体WWFを支援しています。

文化講演会とオープンカレッジの開催

不二製油が協賛し、NPOりんくうメディカルプラザの協力を得て、年2〜3回、一般のお客様約200名を対象に医療に関する「文化講演会」を開催しています。また、「オープンカレッジ」を開催し、地域の皆様の健康づくりに貢献しています。

文化講演会の案内状

出張授業の実施

2007年度から、一つの食材について体系的に学ぶ機会のない大学生に対し、「大豆、大豆たん白」に関する栄養価値、健康価値を伝える出張授業を実施しています。2009年度は大学8校で実施し、受講総数は約800名となっています。

出張授業の様子

海上交通の安全に貢献

不二製油では、阪南事業所沖合いにある浮き灯台の点灯を日々確認する協力業務を行っています。これは、阪南工場第一期操業の1969年4月に海上保安庁より依頼を受け、監視協力を始めたものです。以来、保安グループで40年以上引継ぎ、365日毎日1回確認しています。灯火監視を行い、灯台の維持管理に努め、海上交通の安全確保に貢献したことが評価され、2010年7月19日「海の日」に、最高位の国土交通大臣表彰である「海事関係功労者表彰」を受賞しました。

感謝状

環境美化活動

安全環境本部が中心となり、年2回、阪南事業所周辺の清掃活動「クリーン・グリーン作戦」に参加しています。

地域清掃活動

全国事業所の社会貢献

東京支社	・ペットボトルの蓋の回収
名古屋支店	・ペットボトルの蓋の回収
	・備品購入時のエコ品購入
福岡支店	・備品購入時のエコ品購入
札幌営業所	・「北海道クールあいらんどキャンペーン」への参加
阪南事業所	・クリーングリーン活動
	・ペットボトルの蓋の回収
神戸工場	・「兵庫運河を美しくする会（運河沿いの清掃活動）」への参加
	・工場周辺道路（歩道）の清掃活動
	・自治会主催の浜山町夏祭りへの協賛（食材などの提供）
	・浜山小学校の課外授業（工場見学）受け入れ
	・町内会幹部との懇親会
	・地域の消防団を招いた消防訓練の実施
関東工場	・津田公民館主催　生涯学習事業「幼児家庭教育学級・勝田第二幼稚園」施設見学受け入れ
	・エネルギー管理優良事業所表彰
	・ペットボトルの蓋の回収
	・岩間工業団地連絡協議会を通じた協賛（計6件）
	・茨城県笠間市　施設見学受入れ（関東工場／上海旭洋緑色食品／不二製油張家港　上海プラザ）
石川工場 石川サニーフーズ(株)	・環境美化活動
	・地域住民（小・中学校生）の工場見学受け入れ
	・地域の障害者（養護学校）への協賛（2009年度は「豆まき」の豆を協賛）
	・「海外留学生／ジャパン・テント」の企業研修受け入れ
つくば工場	・「クリーン坂東」への参加（工場周辺のゴミ収集）
	・工場周辺の清掃活動
	・地域の祭りへの協賛
	・坂東市の「将門マラソン」への協賛
	・岩井ハイテクパーク（工業団地）内の各企業と連携活動
千葉工場	・クリーングリーン活動
	・環境再生基金への募金
	・ペットボトルの蓋の回収
	・企業カレンダーの老人ホームへの寄付
	・献血の実施
つくば研究開発センター	・外周の清掃活動
	・献血の実施
	・地元自治会や社員の子どもが通学している小学校への寄付

国内グループ会社の社会貢献

トーラク 株式会社	・地域の祭り、イベントへの協賛（神戸まつり、神戸ルミナリエ）
	・中学生の社会体験への協力
	・六甲アイランド地域振興会の島内清掃等への協力
	・音楽会のスポンサー協力（サンセットサロン'94）
	・インターシップ学生の受け入れ教育
株式会社 フクシヨク	・地域清掃活動
	・地区小学校こども会活動への協力
	・インターシップ学生の受け入れ教育
	・植樹活動への参加
フジフレッシュフーズ 株式会社	・工場周辺の清掃活動
	・地域の祭りへの協賛（デカンショ祭り、たんなん商工まつり）
	・地域振興活動への貢献 （地元生産者より調達した特産原料による新製品開発）
ワルツファンシー 株式会社	・地域の祭りへの協賛（中川区「どまんなか祭り」）
今川 株式会社	・地域PTA親子クラブへの菓子づくり教室に講習会場を開放
	・若いシェフへ試作品づくりのための講習会場を開放
	・ペットボトルの蓋の回収（地域病院へ持参）
	・使用済み切手の回収（地域小学校へ持参）

column　大豆を養護学校の豆まき会に提供（石川サニーフーズ）

石川サニーフーズ（株）では、工場見学の受け入れをはじめ、日頃から幅広い地域活動を行っています。2010年2月2日は、近隣の養護学校が行う「豆まき会」への協力のため、主要原料の大豆を提供しました。

column　小学校PTA「父親部」向け菓子づくり教室への協力（今川）

今川（株）では、大分市内の小学校PTAの「父親部」が開催する菓子づくり教室に、講習会場を提供しています。2010年2月14日の菓子づくり教室には親子20組、総勢50人が参加。今川の社員が講師となって、ケーキづくりを行いました。

環境報告

地球環境のために
環境経営の推進 …… 39
事業活動と環境負荷 …… 40
環境目標と実績 …… 41
地球温暖化防止 …… 42
水資源の保全と廃棄物の削減・再資源化 44
その他の環境対応 …… 45
環境会計 …… 46

環境経営の推進

「省エネルギー」「温室効果ガスの削減」「給排水量の削減」「廃棄物の削減とリサイクル」「製品への環境配慮」などに積極的に取り組み、自然環境と調和した事業活動を行っています。

環境経営の基本的な考え方

不二製油グループがお届けする製品の原料は、全て自然の恵みによるものです。自然環境を保全することは、持続可能な企業活動を行うための必須課題であり、社会的責任でもあります。不二製油グループは、これからもお客様の健康で豊かな食生活と安全・安心を第一にしながら、自然と社会との調和の中で事業展開していきたいと考えています。

不二製油グループ環境基本方針

【理念】

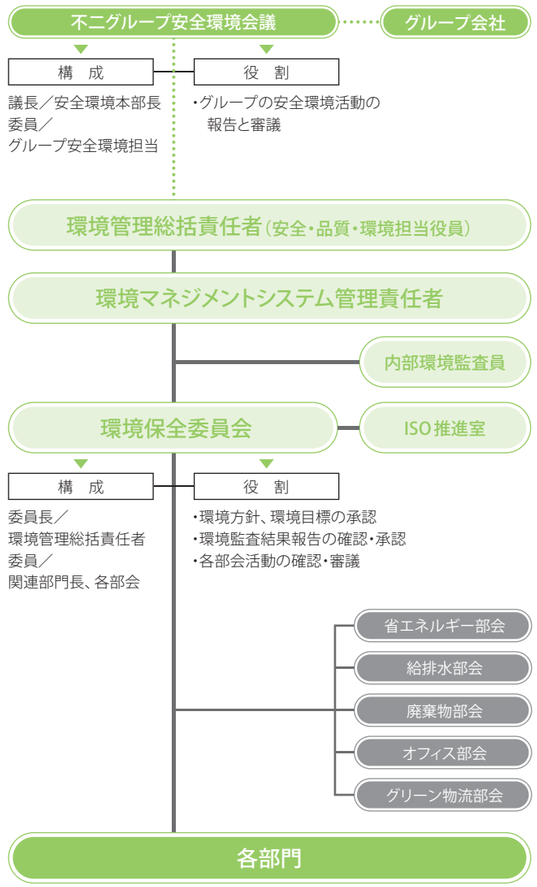
不二製油グループは、食品企業として「安全・品質・環境」を経営の前提とし、社会や地域とともに自然との調和を図りながら事業活動を推進します。

【方針】

1. 環境保全活動の継続的な改善に努めます。
2. 環境関連の法規制を順守します。
3. 環境に配慮した製品開発、技術開発に努めます。
4. 社会とのコミュニケーションに努めます。

制定：1999年4月15日　改訂：2007年4月1日
不二製油株式会社　代表取締役社長　海老原 善隆

■環境マネジメントシステム体制図



環境マネジメントシステム体制

不二製油では「環境保全委員会」の設置に加え、「省エネルギー部会」「給排水部会」「廃棄物部会」「オフィス部会」「グリーン物流部会」の5つの専門部会を設けて環境保全活動を展開し、毎月開催する「安全・品質・環境会議」、年2回開催する「不二グループ安全環境会議」で体制をより強化しています。なかでも「グリーン物流部会」は資材部、安全環境部、情報システム部、ロジスティクス部で構成され、改正省エネ法対応の施策や実施効果のチェックを行っているほか、「定期報告書」と「計画書」を作成し、行政に提出する役割も担っています。

さらにロジスティクス部では、「トラック分科会」と「ローリー分科会」を定期的に主催し、各パートナーとエネルギー削減や物流事故削減についての報告や議論を交わしています。

ISO14001認証取得状況

2000年9月、不二製油グループ国内生産数量の85%を占める阪南事業所で取得以来、国内生産拠点での認証取得を順次進めてきました。2010年10月（予定）、りんくう工場が認証取得すると、国内生産拠点9工場で認証取得が完了します。

環境監査

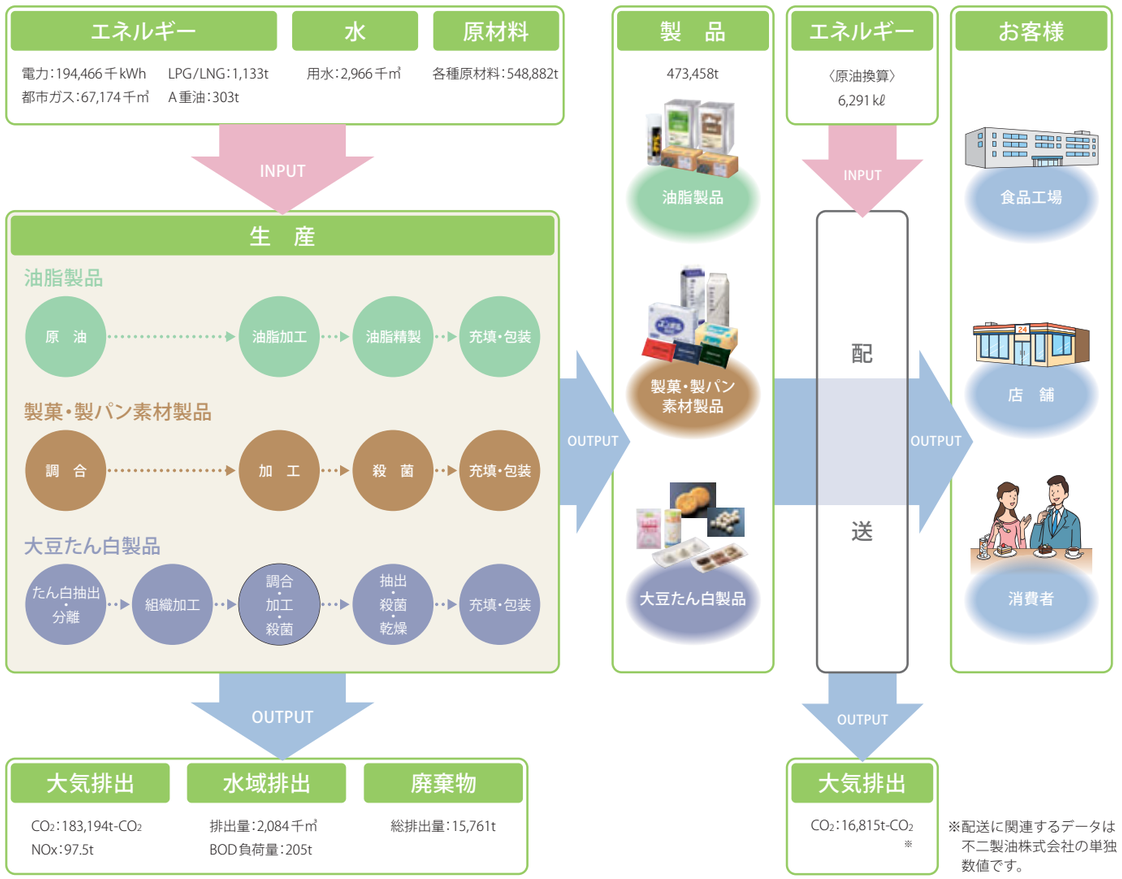
ISO14001に基づき、毎年7月〜9月に「内部環境監査」、10月に外部認証機関による「外部審査」を実施しています。内部環境監査員に関しては、毎年6月に研修を行っています。

事業活動と環境負荷

事業活動に伴う環境負荷を適切に把握し、
地球環境と不二製油グループの持続的な発展に努めています。

事業活動における環境負荷の全体像

不二製油グループでは、事業活動に伴って発生する環境負荷を低減するために、原材料の調達から生産、物流における資材・エネルギーの投入量（INPUT）、廃棄物などの排出量（OUTPUT）を正しく把握し、分析しています。



※配送に関連するデータは不二製油株式会社の単独数値です。

環境目標と実績

「2010年度中期目標」の達成に向けて、テーマを設定し、取り組んでいます。
2010年度以降については、新たに2020年度を目標年度として環境ビジョンを策定する予定です。

2009年度環境目標と実績

不二製油グループでは、「省エネの推進」「給排水の削減」「廃棄物削減」「温室効果ガス削減」を環境保全活動の目標に掲げ、達成に向けて取り組んでいます。2009年度は「給排水の削減」の内、「給水量原単位の削減」は目標を達成することができましたが、それ以外は目標を達成することができませんでした。2010年度の目標達成を目指し、グループ全体で取り組んでいきます。

■2009年度環境目標と実績

	項目	内容	2009年度目標	2009年度実績	取り組みと達成状況	2010年度目標
1	省エネ推進	エネルギー原単位※1の削減	2008年度対比2.5%削減	0.9%増加 目標未達成	スチームトラップの改善など省エネ活動を実施しましたが、エネルギー原単位が大きい生産ラインの使用量が増加し、目標は達成できませんでした。	2007年度対比5%削減
2	給排水削減	給水量原単位※2の削減	2008年度対比1%削減	1.5%削減 目標達成	給水設備の洗浄工程における節水などを実施し、目標を達成しました。	2007年度対比5%削減
		排水量原単位※3の削減	2008年度対比1%削減	0.4%増加 目標未達成	排水処理水の潅水利用など水のリサイクルに取り組みましたが、結果的には使用量が増加し、目標は達成できませんでした。	2007年度対比5%削減
3	廃棄物削減	排出廃棄物の削減	2008年度対比8%削減	6.9%削減 目標未達成	汚泥や動植物性残渣の削減を積極的に行い、1,168tの廃棄物を削減しましたが、目標には及びませんでした。	2007年度対比20%削減
4	温室効果ガス削減	CO_2排出量原単位※4の削減	2008年度対比2.5%削減	1.3%増加 目標未達成	エネルギー使用量が増加し、目標は達成できませんでしたが、2月に植物油のパイプロ油ボイラーを導入し、CO_2排出量削減に今後寄与する予定です。	2007年度対比5%削減

※1 エネルギー原単位＝原油換算使用量／生産数量（kℓ/t）
※2 給水量原単位＝給水量／生産数量（㎥/t）
※3 排水量原単位＝排水量／生産数量（㎥/t）
※4 CO_2排出量原単位＝CO_2排出量／生産数量（t-CO_2/t）

■環境活動の歩み

1999年（平成11年）4月　ISO14001認証取得活動開始
不二製油グループ環境基本方針、不二製油株式会社環境方針制定
5月　環境専門3部会設置（省エネ、給排水、廃棄物）
8月　第2号コ・ジェネレーション導入（阪南事業所）
2000年（平成12年）9月　阪南事業所ISO14001認証取得
2001年（平成13年）2月　ウッドランド サニーフーズISO14001認証取得
6月　第3号コ・ジェネレーション導入（阪南事業所）
2002年（平成14年）9月　神戸工場ISO14001認証取得（阪南事業所認証範囲拡大）
2003年（平成15年）4月　液中膜処理設備を導入（堺工場）
7月　堺工場ISO14001認証取得（阪南事業所認証範囲拡大）
おから乾燥1号機を導入（阪南事業所）
8月　汚泥乾燥設備を導入（堺工場）
液中膜処理設備を導入（阪南事業所）
9月　おから乾燥機を導入（石川工場）
11月　ポリペール容器設備の導入（関東工場）
2004年（平成16年）2月　おから乾燥2号機を導入（阪南事業所）
4月　第4、第5号コ・ジェネレーション完成（阪南事業所）
5月　関東工場ISO14001認証取得（阪南事業所認証範囲拡大）
9月　不二製油グループ環境報告書2004を発行
12月　つくば研究開発センター、たん白食品つくば工場ISO14001認証取得（阪南事業所認証範囲拡大）
2005年（平成17年）3月　ドレン水回収設備を導入（阪南事業所）
2006年（平成18年）2月　汚泥乾燥設備を導入（阪南事業所）
12月　加圧浮上にマイクロバブル装置を導入（阪南事業所）
2007年（平成19年）5月　石川工場ISO14001認証取得（阪南事業所認証範囲拡大）
2008年（平成20年）5月　千葉工場ISO14001認証取得（阪南事業所認証範囲拡大）
2009年（平成21年）12月　ガスタービン廃熱回収設備導入（阪南事業所）
2010年（平成22年）2月　パイプロ油ボイラー導入（阪南事業所）

地球温暖化防止

省エネルギーの推進をはじめ、モーダルシフトに積極的に取り組むなど、
生産活動及び物流において、地球温暖化の防止に向けた様々な活動を行っています。

事業活動における温暖化防止

不二製油グループの事業活動のなかで、最も環境負荷が大きいのは生産活動です。この生産活動における省エネルギーの推進やCO_2などの温室効果ガス排出量削減に対しては、特に積極的な取り組みを行っています。しかし、2009年度は、エネルギー使用量（原油換算）が9万1,685kℓで対前年比0.4%の増加、CO_2排出量は18万3,194t-CO_2で対前年比0.8%の増加となりました。

省エネルギー設備の導入や燃料の転換を推進

不二製油グループでは、コ・ジェネレーションシステムなど省エネルギー設備の導入、重油から都市ガスへの燃料転換推進など、地球温暖化防止のために積極的な取り組みをしています。2009年12月にはボイラーの廃熱を再利用するエコノマイザーを増設し、ボイラーの高効率化を図ることで、都市ガス使用量の年間50万㎥低減が期待されています。さらに2010年2月には、植物油のバイプロ油を再利用するボイラーを導入しました。これにより、都市ガス使用量を年間262万㎥低減することが可能となりました。

また、排水処理のメタン醗酵工程より産出されるメタンガス（都市ガス換算で約50万㎥/年）も有効利用しています。不二製油グループでは、今後さらにバイオエネルギーの利用を拡大し、温室効果ガス排出量削減を進めていきます。

コ・ジェネレーションシステムの導入

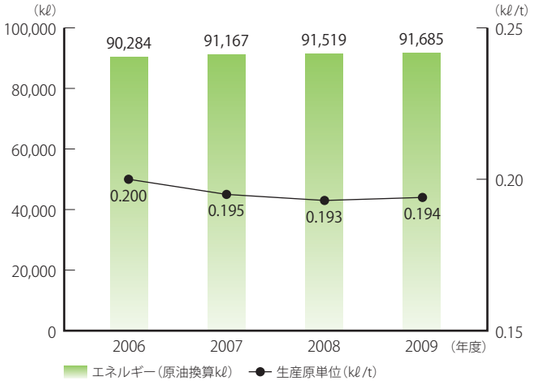
事業所単位での取り組み

不二製油グループは、地球温暖化防止のために各事業所単位での取り組みも積極的に行っています。阪南事業所では、「省エネルギー部会」を中心に、省エネ活動を展開しています。特にスチームトラップの改善を毎年進めることで、大きな省エネ効果を発揮しています。

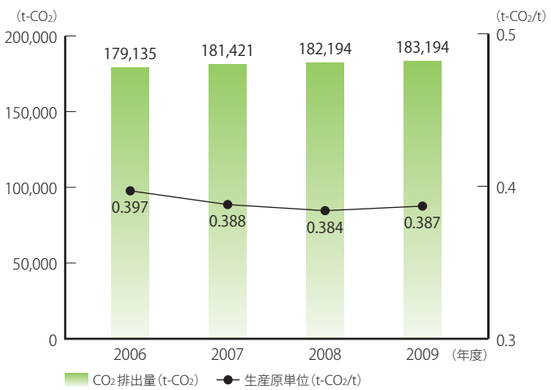
また、省エネルギーを積極的に進めてきた関東工場では、努力と成果が認められ、2010年2月16日、模範となる事業者として関東経済産業局長賞「エネルギー管理優良事業者表彰」を受賞しました。

エネルギー管理優良事業者表彰を受賞

■エネルギー使用量と原単位推移



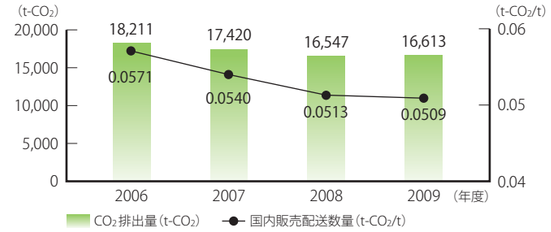
■CO_2総排出量と原単位推移



物流における温暖化防止

不二製油は、改正省エネ法で定める特定荷主として、「グリーン物流部会」を中心に物流の効率化を追求しています。物流パートナーとともにエネルギー使用量およびCO_2排出量の削減に積極的に取り組んでいます。輸送量の増加により、2009年度の国内輸送のCO_2排出量は前年度比0.4%増加となりましたが、原単位においては、0.7%削減となりました。

■輸送によるCO_2排出量と原単位



モーダルシフト※の推進

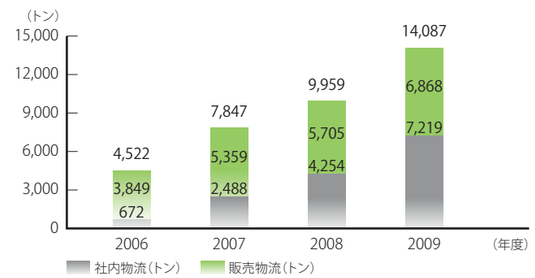
2009年度の鉄道による輸送貨物総重量は1万4,087トンとなり、前年に比べ4,128トンの増加となりました。不二製油では毎年、3,000トン増加という目標を掲げ、モーダルシフトを推進しています。毎年着実に実行してきた努力と実績が評価され、2010年6月に社団法人鉄道貨物協会より「鉄道輸送功労者」として表彰されました。

社内物流の計画輸送、物流パートナーの協力を得ながら、今後も更なる改善に取り組んでいきます。

※自動車や航空機による貨物輸送を鉄道や船舶にシフトすること

モーダルシフトを推進

■鉄道輸送重量



グリーン物流の取り組み

タンクローリーの輸送については、物流パートナーとともに装置や設備を利用し、エコ運転を推進しています。その一環として全ての物流パートナーにはグリーン経営認証※を取得していただいています。

※交通エコロジー・モビリティ財団が認証機関となり、グリーン経営推進マニュアルに基づいて一定のレベル以上の取り組みを行っている事業者に対して、審査の上認証・登録を行うもの

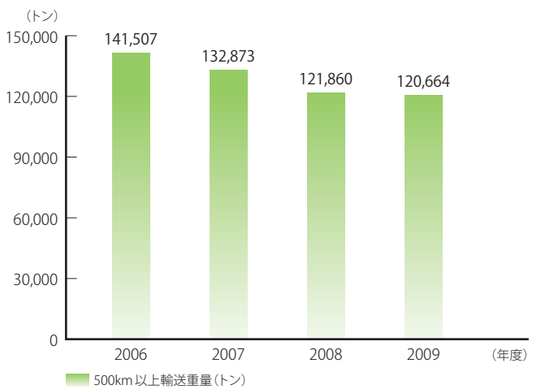
グリーン経営認証マーク

近場出荷による長距離輸送量の削減

2009年度は、これまで関西圏だけで生産していた製品を関東圏の工場でも生産・出荷することにより、輸送距離が短縮され、CO_2排出量を大幅に削減することができました。

さらに北関東方面への輸送距離を短縮するため、神奈川県に加え、埼玉県に物流拠点を新設しました。長距離輸送（500km以上）は年々減少傾向にあり、2009年度における長距離輸送の輸送重量は12万664トンと前年から1,197トン減少しました。今後もモーダルシフトの推進とともに、近場生産（近場出荷）による輸送距離の短縮を図りながら、CO_2排出量の削減に取り組んでいきます。

■トラック：500km以上輸送重量の推移



水資源の保全と廃棄物の削減・再資源化

工場内での水使用量削減や適切な排水処理のほか、
廃棄物の排出抑制と再資源化にも取り組んでいます。

給排水の削減

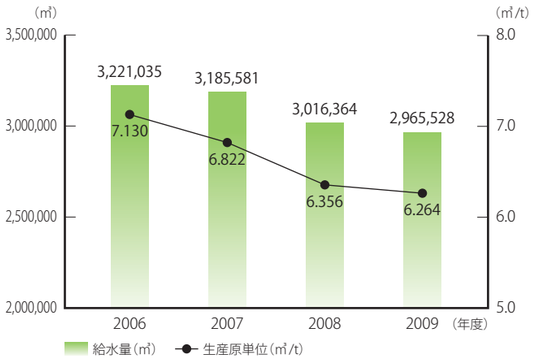
事業活動における給排水の削減

工場では水資源保全のために、タンク・配管などの洗浄や冷却用に使用する用水削減に取り組んでいます。排水は、浄化処理したうえで水質管理を徹底し下水道や公共用水域へ放流しています。

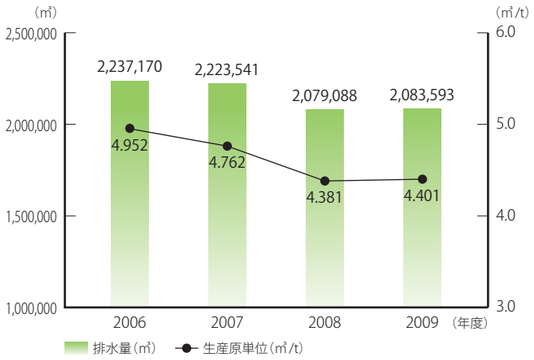
阪南事業所では、給水設備の洗浄時のエア抜きを自動化することで、一日の給水量90㎥を削減しました。また、排水処理設備では、水質浄化後の排水を緑地潅水に再利用し、10月～12月の3カ月間で工場からの排水を2,450㎥削減することができました。

不二製油グループの2009年度実績は、給水量では1.5%減少しましたが、排水量では0.4%の増加となっています。

■給水量・原単位



■排水量・原単位



廃棄物の削減と再資源化

ゼロエミッション活動

不二製油グループでは、廃棄物削減と生産工程で多く発生する原料の植物性残さや汚泥の再資源化に積極的に取り組んでいます。2009年度の廃棄物排出量は、不二製油グループで1万5,761トンでした。これは、前年度に比べ1,168トンの削減となり、6.9%の減少となっています。また、最終処分量は68トンで、前年度に比べ43トンの削減となり、最終処分率は0.43%でした。

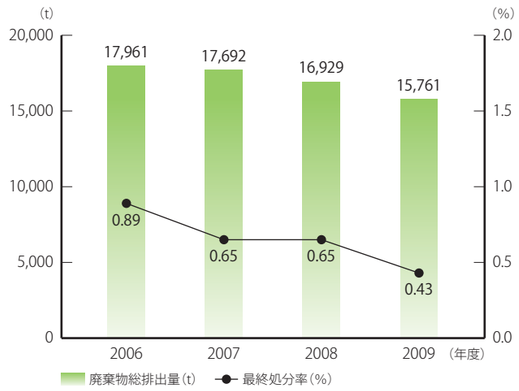
阪南事業所と堺工場では、汚泥乾燥設備の導入により、排水処理で発生する汚泥を100%再資源化することができました。汚泥を乾燥させて有機肥料の原料として再利用しています。

また、石川工場では、発生する生おからを工場内で焼却処分していましたが、おから乾燥機を導入し、完全リサイクルを実施しています。乾燥したおからは、飼料や肥料、キノコの菌床などの用途に使われています。

今後も全社ゼロエミッション達成に向け、再資源化率の向上と最終処分量の削減を目指します。

汚泥乾燥設備の導入

■廃棄物総排出量・最終処分率



その他の環境対応

オフィスでもグリーン購入の推進などの活動を続けているほか、
サプライヤーとの協働により、環境負荷を低減する取り組みも行っています。

サプライヤーとの協働による環境負荷低減

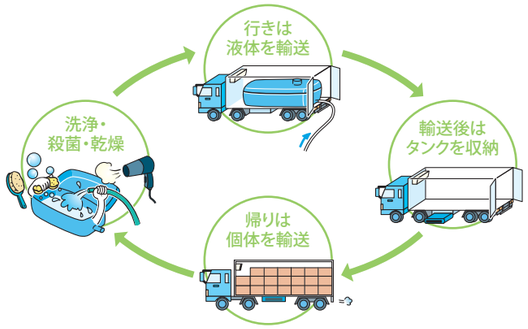
不二製油では、サプライヤーとの取り組みで、環境負荷を軽減する調達を行っています。

サプライヤーとの協働によるエネルギーの低減

不二製油では、脱脂粉乳を仕入れ、溶解作業をしていますが、一部を液体の脱脂濃縮乳に切替ました。この変更により、サプライヤーでは液状から粉体への加工工程を、当社では粉体から液状への加水工程をカットすることが可能となり、両社でのエネルギー削減に貢献することができました。また液状化により、ムダな粉体包材の削減にもつながりました。

ソフトタンク輸送への一部切替

従来、液状乳製品は、タンクローリー輸送が行われていましたが、専用車のため帰り荷を積むことができませんでした。このため、当社では帰り荷が積めるソフトタンクを使用した輸送に一部切替を行いました。これにより、物流の効率化が図られ、さらにソフトタンクの特徴であるチルドでの輸送によって、より品質の良い原料調達が可能となりました。



地場サプライヤーの利点を生かした調達

不二製油は、苛性ソーダ調達を32%濃度品へ切替を行いました。通常は、保管・流通に適している48%濃度品が一般品として流通していますが、サプライヤー側で32%から48%への濃縮加工が必要になります。両社の工場が近い利点を活かして濃縮工程をカットし、32%に統一することで配車の効率化、当社の加水工程の削減を実現することができました。

サプライヤーと一体となった包材調達

不二製油では、包材のCO_2排出量削減を進めています。従来は品種ごとの特性を踏まえた包材設計を行っていましたが、一般製法への変更を両社で検討し、よりCO_2排出量が少なく、サプライヤーにとって生産効率がよい包材調達を実施しています。

オフィスでの取り組み

省エネ活動の一環として、不二製油グループのオフィスでは6月～9月にクールビズ、11月～3月にウォームビズを実施しています。また、オフィスの文具・事務用品は、グループ全体でグリーン購入法適合商品やグリーン購入推奨商品を積極的に購入するようにしています。

2009年度はホストコンピュータの更新に伴い、コンピュータ出力用紙は2009年5月で廃止となりました。2009年度からはコピー用紙とコンピュータ用紙の合計で管理を行い、前年度に比べ0.3%（約2.5万枚）増加しましたが、2005年度からの5年間では5.5%（約57万枚）削減することができました。今後も活動を継続し、更なる削減を目指します。

■コピー／コンピュータ出力用紙の使用量

環境会計

環境省「環境会計ガイドライン2005年版」に準拠して、
環境保全活動に要したコストとその効果を集計しています。

2009年度の環境会計

集計対象：不二製油株式会社（単独）　対象期間：2009年4月～2010年3月

【算定方法】
●投資額：投資目的の50%以上が環境保全であるものは、全額環境投資とみなしました。
●減価償却費：投資目的の50%以上が環境保全であるものを過去6年間にさかのぼり一律12年間の定率消却としました。
●直接把握が可能な費用については、原則として全額を集計しました。直接把握が困難な費用については、実態に即した比率で按分計算するなどし、集計しました。
●環境保全対策に伴う経済効果については、把握可能な効果のみを集計しました。

■環境保全コスト

（単位：百万円）

分類		主な取り組み事例	環境投資額	費用額
事業エリア内コスト			305	940
内訳	①公害防止コスト	廃水処理設備の導入・維持管理、公害防止費用など	38	474
	②地球環境保全コスト	コ・ジェネ設備（省エネルギー設備、節水設備の導入・維持管理）など	241	124
	③資源循環コスト	廃棄副産物の適正処理設備、節水設備の導入・維持管理、廃棄物処理費用など	25	342
上・下流コスト		段ボールレス化設備の導入、グリーン購入費差など	0	4
管理活動コスト		ISO14001マネジメントシステムの構築、維持、社員教育、環境報告書作成費など	0	263
研究開発コスト		資源の高度利用研究など	0	103
社会活動コスト		工場周辺清掃活動、環境保全などを行う団体への支援など	0	3
環境損害対応コスト		汚染負荷量賦課金	0	9
合計			**305**	**1,322**

■環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標	単位	2008年度	2009年度	増減量
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	エネルギー使用量原単位	ℓ/t	189.7	191.5	1.8
	給水量	千㎥	2,774	2,722	△52
	給水量原単位	㎥/t	6.11	6.01	△0.10
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	CO_2排出量原単位	kg-CO_2/t	376.0	380.8	4.8
	排水量	千㎥	1,885	1,889	4
	排水量原単位	㎥/t	4.15	4.17	0.02
	廃棄物排出量	t	15,352	14,045	△1,307
	廃棄物排出量原単位	kg/t	33.8	31.0	△2.8
事業活動から算出する財・サービスに関する環境保全効果	廃棄物最終処分率	%	0.5	0.3	△0.2
その他の環境保全効果	コピー用紙など（コンピュータ出力用紙含む）	千枚	9,665	9,690	25

■環境保全対策に伴う経済効果

（単位：百万円）

環境保全効果の分類	効果の内容	金額
収益	廃棄物再資源化による有価物の売却益（おから、廃油、廃段ボール売却）	20
費用節減	廃棄物の削減によるコストダウン	42
合計		**62**

編集後記

私たち不二製油グループは、初めてコーポレートメッセージ「二つとない、をつくる。不二製油」を掲げました。従業員の意識を一つにするため、そしてまた、このメッセージはステークホルダーの皆様に対する私たちの姿勢でもあります。

これから私たちは「二つとない、をつくる。不二製油」をCSRビジョンに掲げ、CSRを推進してまいります。

課題もまだまだたくさんあります。初めて発行するこのCSRレポートで不二製油の活動を「見える化」し、一つひとつ課題を解決できる不二製油らしいCSR活動を地道に進めてまいりたいと思います。

不二製油は、ステークホルダーの皆様の期待に応え、信頼関係を築き、いきいきとした企業を目指します。

皆様のご意見をお待ちしています。

CSR推進室

お問い合わせ先
不二製油株式会社　CSR推進室
〒598-8540 大阪府泉佐野市住吉町1番地
TEL 072-463-1295　FAX 072-463-1006

二つとない、をつくる。

不二製油

PRINTED WITH SOY INK

Waterless Printing Naturally

FSC ミックス品
FSC認証林及び管理された
森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-2272
© 1996 Forest Stewardship Council

この印刷物は環境に考慮し、大豆インキ・水なしオフセット印刷で制作しています。